

欺かれた国家：学校がアメリカの優秀な生徒をいかに妨げているか

# 欺かれた 国家：

学校がアメリカの優秀な生徒を  
いかに妨げているか

第1巻

第1巻

加速教育に関するテン플トン・ナショナル・レポート





# 欺かれた 国家:

学校がアメリカの優秀な生徒を  
いかに妨げているか

第1巻



ニコラス・コランジェロ (Nicholas Colangelo)  
スーザン・G・アスーリン (Susan G. Assouline)  
ミラカ・U・M・グロス (Miraca U. M. Gross)

加速教育に関するテンプレトン・ナショナル・レポート



*Translation of the English version of A Nation Deceived, Volume I by 1-800-Translate, an ISO:9001 certified language service provider. For more information, please call 1-800-872-6752 or visit [www.1-800-Translate.com](http://www.1-800-Translate.com).*

「欺かれた国家」第I巻は、ISO-9001認証取得済みの翻訳サービス会社1-800-Translateによる英語原文からの翻訳です。詳しくは、1-800-872-6752にお電話いただくか[www.1-800-Translate.com](http://www.1-800-Translate.com)をお訪ねください。

## 全米優秀学生協会承認

© 2004 コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク国際優秀学生教育・能力開発センター

デザイン: アイオワ州アイオワ市、ベンソン・アンド・ヘプカー・デザイン  
カバーアート: ジョーン・ベンソン  
出版: アイオワ州アイオワ市、アイオワ大学

2004年10月

アイオワ大学教育学部コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク国際優秀学生教育・能力開発センター  
600 ブランク・オナー・センター  
アイオワ市、アイオワ州52242-0454  
800.336.6463  
<http://www.education.uiowa.edu/belinblank>

優秀学生教育研究・リソース・インフォメーション・センター (GERRIC)  
ニューサウスウェールズ大学  
UNSW シドニー  
ニューサウスウェールズ  
オーストラリア2052

<http://gerric.arts.unsw.edu.au/>

<http://nationdeceived.org>

# 欺かれた国家:学校がアメリカの優秀な生徒をいかに妨げているか

	謝辞 .....	vii
	ゲストまえがき .....	ix
	学校へのメッセージ .....	xi
第1章	優秀性を無視するアメリカ .....	1
第2章	学校がアメリカの聡明な生徒を妨げている .....	5
第3章	アメリカにおける加速教育の歴史 .....	11
第4章	「イエス」は簡単:早期就学 .....	15
第5章	小学校での飛び級 .....	19
第6章	才能発掘革命 .....	25
第7章	難しい選択:高校での課題 .....	29
第8章	アドバンス・プレースメントのすべて .....	31
第9章	大学への早期入学 .....	35
第10章	公共政策:努力に報いる立法 .....	39
第11章	お金の話:加速教育の財政的側面 .....	43
第12章	加速教育に対する意見 .....	45
第13章	教師による支援 .....	49
	エピローグ .....	52
付属文書A	『欺かれた国家:学校がアメリカの優秀な生徒をいかに妨げているか。』要約 .....	53
付属文書B	著者紹介 .....	54
付属文書C	コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク国際優秀学生教育・能力開発センター .....	56
付属文書D	優秀学生教育研究資料情報センター .....	57
付属文書E	ジョン・テンブルトン財団 .....	58
付属文書F	父兄と教育者のための資料 .....	59
付属文書G	今すぐできること .....	67



# 謝辞

これこそ真のナショナル・レポートです。ジョン・テンブルトン財団の支援により、2003年5月に私たちはアイオワ大学で加速教育のサミットを開催しました。加速教育に関するナショナル・レポートを作るべく全米から著名な学者、教育者を招待しました。参加者のリストは第Ⅱ巻の付属文書Eに記載されています。

我々は、高い能力の生徒の教育について最善の決定を下すために学校が知るべきことをすべて検討しました。この活発な議論から『欺かれた国家：学校がアメリカの優秀な生徒をいかに妨げているか』2巻が作られることになったのです。

第Ⅰ巻の内容は第Ⅱ巻にある情報が基礎になっています。フォーマットと内容の最終決定および第Ⅰ巻の内容については、すべて私たち3人が行ないました。第Ⅱ巻の各章を執筆した国際的専門家に対して深く感謝します。

リンダ・E・プロディー、ジョンホプキンス大学  
ジェームス・J・ギャラガー、ノースカロライナ・アット・チャペル・ヒル大学  
エリック・E・ジョーンズ、ボウリング・グリーン州立大学  
ジェームズ・A・クリック、ミシガン大学  
デイビッド・ルビンスキー、バンダービルト大学  
アン・E・ルブコウスキー・ショプリック、カーネギー・メロン大学  
シドニー・M・ムーン、パーデュー大学  
ミシェル・C・ムラトリ、ジョンズ・ホプキンス大学  
ポーラ・オルシェウスキー・クビリウス、ノースウェスタン大学  
サリー・M・リース、コネチカット大学  
ナンシー・M・ロビンソン、ワシントン大学  
カレン・B・ロジャース、セント・トーマス大学  
W・トーマス・サザン、マイアミ大学(オハイオ州)  
ジュリアン・C・スタンレー、ジョンズ・ホプキンス大学

以下の方々から第Ⅰ巻の原稿を読んだの貴重なご意見や編集上のコメントをいただきました。このプロジェクトへのご協力に感謝します。

クラーク・バルダス、アイオワ大学ベリン-ブランク・センター  
ローラ・ベリン、フリーランス作家  
カミラ・ベンボウ、バンダービルト大学  
ケイ・コランジェロ、セラピスト  
ローリー・クロフト、アイオワ大学ベリン-ブランク・センター  
サンドラ・ダミコ、アイオワ大学  
ジャン・ダビッドソン、ダビッドソン・インスティテュート  
トルディー・デイ、アリアント国際大学  
ジェリリン・フィッシャー、アイオワ大学ベリン-ブランク・センター  
ジャネル・グラメンス、ダベンポート・コミュニティ・スクール  
キャサリン・ハーシュ、アイオワ大学ベリン-ブランク・センター  
ピーター・フレボウィッチ、アイオワ大学  
キャサリン・ヘックマン、ニューサウスウェールズ大学  
アーロン・ホフマン、高校生  
アン・ホフマン、教育コンサルタント



ジュディー・ジェフリー、アイオワ大学教育学部  
デイビッド・ルビンスキー、バンダービルト大学  
ロザンヌ・マレク、アイオワ大学教育学部  
ジェームス・マーシャル、アイオワ大学  
ミーガン・フォレー・ニクボン、アイオワ大学ベリンブランク・センター  
クリスティナ・ハム・ピーターソン、ACT, Inc.  
レイン・ブラッジ、アイオワ市コミュニティー・スクール・ディストリクト  
ジョセフ・レンツリ、コネチカット大学  
アン・ロビンソン、アーカンソー大学  
アンドリュー・シーヒー、アイオワ大学財団  
ジュリアン・C・スタンレー、ジョンズ・ホプキンス大学  
テッド・スティルウィル、アイオワ大学教育学部  
レナ・スボトニック、アメリカ心理学協会

以下の方々にも支援をいただきました。

リンダ・プロディ、ジョンズ・ホプキンス大学  
ジェーン・クラレンバツハ、全米優秀学生協会  
ナンシー・ロビンソン、ワシントン大学

アイオワ大学ベリンブランク・センターでこのプロジェクトを補助して下さった総務秘書フランシス・ブラム、秘書レイチェル・ハンセン両氏にも感謝します。

このレポートのために進んでインタビューに応じ、希望と懸念を私たちと共有して下さった、父兄、学生、教師の方々には感謝します。皆さんの協力なしには、このレポートを作成することはできなかったでしょう。

ペンシルバニアのジョン・テンブルトン財団からは、このレポート作成を可能にするために多額のご支援をいただきました。これにより、このレポートは無償で提供されます。特にアーサー・シュワルツ博士のサポートに感謝します。シュワルツ博士は、テンブルトン財団によるこのレポートの擁護を主導しました。

両巻ともBenson & Hepker Designのロビン・ヘプカーとジョーン・ベンソン両氏のクリエイティブでプロフェッショナルなデザインによるものです。

文章について相談にのっていただいたアヴィヤ・クシュナー氏のことを特に記しておきます。彼女の洞察と素晴らしい文章力が第1巻にとってかけがえないものとなりました。

私たちは関係者すべての方々のご貢献に感謝します。第1巻を含む内容についての最終判断は、私たち3人が行ないました。

ニコラス・コランジェロ  
スーザン・アスーリン  
ミラカ・グロス

# ゲストまえがき

学習進度を速める加速教育に関するテンブルトン・レポート第1巻は、全米の学校に対して優秀な生徒に加速教育を行う必要があると警鐘を鳴らしています。加速教育方式は、過去50年余の確固とした研究の基礎があり、これまでよりもっと実際的な利用価値があるのです。

様々な加速教育がプラスに働くことは、常に研究が証明するところです。しかしながら、特に初等・中学校段階では、教育者は授業範囲や流れが阻害され、健全な社会的調整や情緒的調整ができなくなるのではないかという根拠のない恐れから、加速教育に懐疑的です。ところが本巻で指摘されているように、まだほとんど実現していないものの、現在の関連諸研究が進んでいることもあり、優秀学生教育および心理学の分野では加速教育が常に支持されているのです。

テンブルトン・レポートは、このような状況において、研究、効果的な実践例、生徒の実際の話を通して、加速教育についての誤解に対処し、その悪影響を払拭しようとするものです。この多岐に渡るアプローチは、一般公衆や教育者が加速教育を理解するための一助ともなるでしょう。ただ、最終的には、各州、各学区で行動を起こすための刺激剤としてこのレポートを実際に用いる教育者にかかっています。

このレポートは、「ただノーと言おう」のスローガンを下敷きにして、加速教育に「イエスと言おう」と訴えています。生徒の受け入れ状態を全体的に調べることで、生徒と加速教育方針との整合性の基礎ができるのです。

本レポートは、何種類かの加速教育とそれを取りまく社会の懸念のそれぞれについて記述しています。また、大学、学校、両親にとっての加速教育の費用効果についても検証しています。このような加速教育普及に役立てるために、教師や一般読者がどのようなことができるか、具体的なアイデアも引用されています。

このレポートが広く受け入れられ、画一教育を信ずる牢固とした社会心理を打破し、能力ある学習者を学校に縛り付ける紐帯が解き放たれることを、私たちは期待しています。今私たちは、実際に行動をとるべきときに来ているのです。

F・リチャード・オレンチャック、Ph.D., P.C.  
全米キフテッド・チルドレン協会会長  
教授、心理学者  
ヒューストン大学  
都市能力研究所所長

ジョイス・ヴァンタッセル・バスカ、Ed.D.  
次期全米優秀学生協会会長  
ジョディ・アンド・レイトン・スミス教育学教授  
ウィリアム・アンド・メアリー・カレッジ  
優秀学生教育センター所長



# 学校に対するメッセージ

このレポートの著者である私たち3人は、合わせると100年以上教育に従事してきました。教育は私たちの生涯の仕事であり、生徒の人生に関与する教師を深く尊敬しています。

私たちの教育のキャリアは、クラス担任の教師として始まりました。私たち自身が教え、調べ、書いているうちに、才能ある子供たちに内在するものが共通していることに何度も感動することになりました。才能ある子供たちは、性別、人種、社会、経済といった背景とは無関係で、地理的な影響も受けていないことを私たちは知っています。地方でも、都市部でも、郊外地でも、アメリカのどこの教室でも、進度の早い教育についていける生徒がいるのです。このような生徒は、公立、私立、オルタナティブ・スクールまで、どのような学校にもいます。

カリキュラムの加速(以下加速教育)は、裕福な家庭の子供たちのためにのものであると批判する者もいますが、これほど真実から隔たった主張はありません。学校が行わなくても、親が豊かであれば子供に加速教育を与えることができます。そのような父兄は子供を私立学校にやり、家庭教師をつけ、加速教育の夏期講習や学外活動に送ることができます。しかし貧しい子供は、学校が行わない限り難しいカリキュラムに挑む経験をする望みはないのです。

私たちは、加速教育の真実を広く一般に伝えることに情熱を注いでいます。子供たちの利益になる可能性があるを知っているからです。加速教育は、勉学の才能があってもオルタナティブ教育の手段のない子供たちの大多数にとって非常に大切です。

加速教育は、通常よりも進度を速めるか早期に教育プログラムの中で生徒を移動させる一種の介入です。それは、カリキュラムのレベル、難易度、進度を生徒の受入態勢と動機にあわせることを意味します。加速教育の例としては、早期入学、飛び級、授業内容の先取り、アドバンス・プレースメントなどがあります。加速教育は、教育上効果があり、費用が余りかからず、豊かな学校と貧しい学校との格差を正に役立ちます。

このレポートは、アメリカの学校での加速教育論議に変化をもたらそうとするものです。私たちは、教師や学校管理者の多くが、能力の高い生徒に対して才能に応じたペースで学習を進める柔軟性を与えたいと考えていることを知っています。このような教育者は、このことに対する支持と承認を求めています。このレポートがそのような支持になることを願っています。それによって、才能ある生徒にとって加速教育は極めて効果的な介入であると、教育者が理解できるように。加速教育が個別の子供、家庭、状況にまで浸透するように。

加速教育は教育の上で強い助けとなりますが、父兄の参加が必要であり、個別のニーズと状況に敏感でなければなりません。それゆえに、このレポートは加速教育の価値を読者に納得させるだけでなく、学校が加速教育プログラムを効率的に実施するとき役立つよう考えて書かれています。才能ある生徒の加速教育について、教育者と父兄とが、以下のような基本的な問題について対話を始めることが私たちの希望です。

1. 子供に受入準備ができていないか十分に調べたか。
2. 受入準備ができていない場合、どのようなタイプの加速教育を施すのが最善か。
3. 数は少ないが加速教育が効果的でない事例もある。子供を伸ばすために学校として何が出来るか。

私たちは、子供が何かを達成する機会を学校が提供できるようお手伝いすべく、キャリアを捧げました。精神と心が赴くところにアメリカ全体の生徒が飛翔できるようにするため、あなたも私たちの仲間になってください。

ニコラス・コランジェロ(Ph.D.)

スーザン・G・アスーリン(Ph.D.)

ミラカ・U・M・グロス(Ph.D.)







# 優秀性を無視するアメリカ

アメリカは優秀性を無視しているのでしょうか？新聞の見出しによると、わが国の学校からは他国の同年代の生徒よりも学力が劣る生徒が社会に送り出されているということが伝えられています。その一方で、あまり公にされることがなく、しかしわが国の将来にとって同様に重要なもう1つの話があります。

どの州のどの学校でも、大都市でも小さな村落でも、教育制度の枠を遙かに超えたレベルの子供たちがいます。

このような子供たちは、政治家の期待を上回る成績を上げることができます。彼らは優等生であり、成績分布カーブを突き抜ける生徒たちです。3歳でシャンプーのボトルに印刷された説明書きを読み、5歳で新聞の社説を読むような子供たちです。野菜の値段をレジよりも速く計算することができ、両親や祖父母を驚かせるのです。

しかし、彼らが学校に通うようになると状況は変化します。教室内で最も苛立つ生徒が彼らであることがよくあります。幼稚園では退屈し、小学校1年でも退屈します。学年が進んでも、新たに学ぶことはほとんどありません。彼らは、いずれ状況が好転することを期待していますが、多くの子供たちにとり、変化が訪れることはありません。

アメリカの教育制度は、クラスメートと歩調を合わせた学習方法を聡明な生徒に対して強要します。教師や校長は、もっと学びたい、教えられる以上のことを学びたいという彼らの意欲を無視しています。

賞賛や激励を受けるかわりに、このような生徒は「ノー」という言葉を聞かされるだけです。彼らが投げかける難問は退けられ、遠くまで飛びたいという思いは打ち砕かれてしまいます。

自分の学年に見合ったことをしる、自分の居場所をわきまえる、と。

これは全国に蔓延するスキャンダルです。その代償として、アメリカの優秀性が徐々にしかし確実に侵食されていきます。



## 表題について

本レポートの表題『欺かれた国家：学校がアメリカの優秀な生徒をいかに妨げているか』は、わが国の学校内で毎日起きていることを反映したものです。わが国の優秀な生徒が加速教育から利益を得ることはないということは、私たち自身、生徒、そしてわが国を欺くことと同じです。

「欺く」というのは非常に強い言葉です。この表題を採用するまでには多くの人々に意見を求めました。私たちはその言責を重んじます。

表題は挑戦的ですが、同時に正確です。この表題は、アメリカに対する私たちの正直なメッセージを集約したものです。そのメッセージとは、私たち自身そして優秀な生徒を欺くことはもはや許されない、ということです。

## 本レポート第II巻の重要ポイント20

1. 加速教育は、才能ある子供たちに対する最も効果的なカリキュラム上の介入である。
2. 加速教育は、優秀な生徒に対して勉学上および社会的に長期にわたり良い影響を与える。
3. 加速教育は、実質的に費用が掛からない介入である。
4. 才能ある子供たちは、同年齢の子供たちと比較して社会的にも感情的にもより成熟している。加速教育により、優秀な生徒は成熟度の似通ったクラスメートを持つことができるようになる。
5. 同年齢の子供たちのためのカリキュラムを与えられた聡明な生徒は、退屈し不満がつのり、学習意欲をなくす。
6. 加速教育から恩恵を受ける可能性がある生徒を見出すのには、試験、特に学年水準より高いもの(年齢が上の生徒のためのもの)を用いることが非常に効果的である。
7. 学校が加速教育実施を決定する場合、優秀であると判定された生徒に対するリスクが少なく成功度の高い介入となることに役立つ実例やその仕組みの説明が入手可能である。「アイオワ加速教育基準」は、学校が子供を1学年加速するべきかどうかを判断する際の、裏付けられた効果的な尺度である。
8. 優秀な生徒のために用意された18種類の加速教育は、2つに大別される。1つはK-12(幼稚園児から12年生)の期間で生徒が学習する年数を短縮する学年ベースの加速教育、もう1つは通常よりも先の内容を学習する科目ベースの加速教育である。
9. 入学時期を早めることは、才能ある子供にとり勉学上および社会的に非常に良い結果を生むことがある。高い能力があり早期入学をした年少の子供たちは、多くの場合年上の同級生に無理なく溶け込むことができる。
10. 大学に早期入学した才能ある生徒は、短期的および長期的に勉学上の成功を収め、また長期的には仕事上でも成功し、個人的な満足感も得ている。
11. 同学年に留まりたいと望む優秀な高校生には、大学へのフルタイムでの早期入学以外にも多くの選択肢がある。高校と大学の同時在籍、遠隔教育、夏期プログラムなどである。アドバンスト・プレースメント(AP)は、高校に通学しながら大学レベルの科目を学ぶことを望む優秀な生徒にとっての、大がかりな最適選択肢である。
12. 大学に早期入学した学生の中で、社会的または感情的な問題に遭遇する者の数は極めて少ない。仮にこのような問題が生じた場合でも、通常は一時的なものであり、調整過程の一部である。
13. 非常に才能豊かな生徒にとっては、大胆な加速教育(2年またはそれ以上の加速教育)が勉学上および社会的に効果がある。
14. 加速教育の成功例や実行可能であることを示す調査結果が多数あるにもかかわらず、多くの教育者はこれまで加速教育の実践に対して概して否定的であった。
15. 加速教育に対するアメリカの見識を大きく変化させるためには、法律、裁判所、行政規則、専門家によるイニシアチブ等、変革の原動力となるものをすべて利用する必要がある。
16. 優秀であると同時に障害を持つ生徒に対して加速教育を効果的に施すには、より多くの時間と資源が必要である。
17. 子供の加速教育については、父兄が意思決定過程に十分に関与することが大切である。
18. 加速教育で発生した僅かな数の問題は、主として不完全またはずさんな計画に起因する。
19. 教育が公平であることは教育が画一であることではない。公平であるということは、学習に対する各生徒の準備態勢が異なることを尊重し、各生徒の価値を認めることである。
20. 教育者にとり最も重要な質問は、才能ある生徒に対して加速教育を「行うべきかどうか」ではなく、「どのように行うか」である。

以上の点についてのさらに詳しい調査は『欺かれた国家』第II巻をご覧ください。



## アメリカは「ノー」と言う

アメリカの優秀な生徒は何を耳にしているのでしょうか。毎年全国で、独自の学習ペースでは先に進んでしまう生徒は、そこに留まるように言われます。何千もの生徒は、自分自身に対する期待値を下げ、夢の実現を先延ばしにするように言われます。彼らの目標がどんなものであっても、教師はもう少し待つようにと言うのです。

焦らないことは賢明であると、多くの学校で言われます。それがその子にとって一番良いのだと。

問題は、それが間違っていることです。多くの調査は、優秀であるが退屈している生徒には既に分かっていること、つまりやり甲斐のある勉強がクラス内に存在しないことを示しています。優秀性を奨励するという点において、私たちは自らを欺いています。優秀性を促進するには、その進歩を助長しなければなりません。

優秀性は、「イエス」の一言から始まります。

聡明な子供に難しい数学の問題を与えることに「イエス」と言う。彼らが外国語を学ぶことに「イエス」と言う。彼らが加速教育で自分より年上のクラスで学ぶことに「イエス」と言う。彼らが遠くへ飛び立つことに「イエス」と言う。

ところが私たちは「ノー」と言います。「ノー」と言うことで、聡明な生徒のやる気は削がれ、私たちも傷つきます。私たちは、子供たちが同年齢の子供たちと一緒にいるのが良いという考えに固執しがちです。このことに疑問を持つことさえしません。このことによる損失は、私たちの住む地域社会、そして子供たちにとって非常に大きなものとなります。

優秀性は、その輝きを失うかもしれません。自己満足に陥るかもしれません。無関心になるかもしれません。優秀性は、無視されることで、その可能性を最大限まで引き出すことができなくなるのです。加速教育に「ノー」と言うことで、静かに、しかも皮肉にも善意から、わが国の能力水準が「優秀」から「最低ライン」に引き下げられることとなります。優秀性は、単に無視されてしまうのです。

## 「イエス」と言うためのコスト

優秀性を再活性化させるためには、いくらかかるのでしょうか。

ごくわずかです。優秀な生徒をさらに先に進めさせることには、ほとんど費用がかかりません。実際には、加速教育がコスト削減につながるがよくあります。

高校生がアドバンスト・プレースメント (AP) 等の大学レベルの科目を取ることで、父兄は数千ドルを節約することができます。多くの大学では、そのような科目にそれだけの費用がかかるからです。

2004年、全米で100万人以上の学生が190万のAP試験を受け、父兄たちは何百万ドルもの大学費用を毎年節約しています。そしてもちろん、若い専門家を早期に社会に送り出すことは、社会を強化し税収増につながります。

「イエス」と言うことがアメリカの生徒にどのような影響を与えるかについて、もう少し説明します。「イエス」の意味することは、幼稚園児、小学生、中高生、大学生では少し違いますが、ほとんどの場合、例外なく素晴らしい言葉です。アメリカの偉業は、この言葉が最初にあったからこそ達成できたのです。

「イエス」という言葉は費用の節約になるだけでなく、優秀な若者の心を救います。多くの場合、この言葉は、同年齢の仲間に加われず、同じような興味を分かち合える友達を求めている生徒を、長年の孤独感と社会的な孤立から救うことになるのです。

「イエス」という言葉は、チャレンジを求めている生徒に対して何かを成し遂げるチャンスを与えます。





# 学校がアメリカの聡明な生徒を妨げている

学校は、勉強のできる生徒に対する対処方法に関して父兄や教師に色々な助言をします。その助言の中には、加速教育が恐ろしいものであるというように思わせるものもあります。しかし、そのような助言は、以前から言われていること繰り返しているだけである場合があります。

何が真実であり何が単なるナンセンスであるかの判断は困難なことです。学術調査によると、加速教育について言われていることの多くは誤りであり、部分的に正しいまたは本当に正しいものは僅かしかないということが証明されています。

## 迷信と実状

表題が指摘するように、才能のある生徒に加速教育を施すことの効果を私たちは何十年も前から知っていたにも関わらず、その真実はこの国の子供たちの教育政策を定める政策決定者から隠蔽され、アメリカは欺かれ続けてきました。そのため、これまで加速教育についての決定は、個人的な偏見や不完全で不正確な情報に基づいて行われてきました。聡明な子供たちが持つ学問への興味は、教育に関する政策論争に巻き込まれて失われてしまったのです。

学校は、あらゆる理屈をつけてアメリカの才能ある生徒を阻害してきました。今大切なことは、なぜ、そしてどのようにして、このようなことが起きているのかを知ることです。私たちは、最近の研究論文を広く調べ、また同じような経験や専門知識を持つ指導的教育者にインタビューを行い、12の主な理由を特定しました。

また、それぞれの理由に対し、わが国の有名大学や教育専門家の確固とした研究結果に基づく回答も提供されています。



## 加速教育とは何か

**加速教育とは、通常よりも早い進度でカリキュラムを進めたり、同年齢グループよりも早期にカリキュラムに参加させる、一種の教育的介入です。**

加速教育には、単一科目の加速教育、飛び級、早期入学、アドバンスト・プレースメント (AP) などがあります。

加速教育とは、カリキュラムのレベル、難易度、およびペースを、生徒の準備態勢や意欲に合わせることを意味します。

大切なことは、加速教育の意味を誤解しないことです。加速教育とは、子供を無理押しすることではなく、また準備が体制が整っていない子供に難しい課目を学ばせたり、年上の子供たちと仲良くすることを強制したりすることではありません。

真の加速教育とは、生徒を自由に大空に羽ばたかせることです。加速教育とは、個人の違いを尊重し、その違いが教育上の柔軟性を生むという事実を認めることです。加速教育は、教育上の利点に対する累積的効果を生み出します。





## 迷信

加速教育は、ほとんどの生徒には必要がないものなので、重要な問題ではない。

## 現実

加速教育の重要性は、数によって決定されるのではなく、高い能力を持つ生徒が求める教育の必要性によって決定されます。多くの必須教育プログラムは、数ではなく必要性に対処します。ヘッドスタート・プログラムやバイリンガル教育がそうです。加速教育は大部分の子供に対して不必要不要であるということは、その重要性を低下させることにはつながりません。

加速教育が必要な生徒の数を正確に算出する手段はありませんが、次のふたつの目安を使って予想を立てることができます。

(1) 長年にわたり、生徒を加速教育カリキュラムに参加させるべきかどうかの判定には標準テストが使用されており、このテストは正確で有益な情報を提供します。準備態勢を判定する他の指標には、自発性、日々の学習態度、親や教師の観察等があります。学校は、このような情報を簡単に入手することができます。

(2) アドバンスド・プレースメント(AP)コースは、当初エリート校に限られていましたが、現在はアメリカ国内の全高校の6割で百万人を超える生徒に対して実施されています。しかし、なぜすべての高校で実施されていないのでしょうか。

## 加速教育がアメリカで受け入れられない12の理由

**理由1:教師は加速教育を良く知らない。** 多くの学校の教育者は、加速教育の利点についての調査結果を知らない。

**反論:**このレポートの基本目的は、この障壁を取り払うことです。2巻で構成されたこの総括的レポートは、加速教育に関する広範な調査を紹介するもので、すべての学校に無料で提供されます。

**理由2:加速教育に関して必ずしも確信が持てない。** K-12(幼稚園児から12年生)の教育者は加速教育について知っているかもしれないが、そのような選択を行うことに確信がない。

**反論:**私たちは、教育者が生徒のために最善と思う決断を行っていることに敬意を表します。加速教育に勉学上および社会的メリットがあるとする多くの証拠により、教育者は加速教育に対して確信を持つことができるようになるはずです。

**理由3:加速教育は、教育者の個人的信条に反する。** 個人の信条と研究結果が対立する場合、個人の信条がほとんど常に優先される。

**反論:**このレポートは内省や教育者と父兄との間の対話を促し、加速教育に関する信条の再評価を求めるものです。

**理由4:最終的には年齢が決め手になる。** 多くの教育者にとり、学年を決定する主要要因は生徒の年齢であり、学習に対する準備態勢ができていくかどうかではない。

**反論:**年齢と学年を同等と見なすという考え方は、私たちが考える個人差というものとかみ合いません。研究調査によると、才能ある生徒は同学年平均と比較して学習面および感情面で先に進んでいることが明らかになっています。従って、学年決定は、年齢ではなく学習に対する準備態勢ができていくかどうかを考慮することが理にかなっています。

**理由5:用心するに越したことはない。**教師の多くは、加速教育をしないことを安全な選択と見なし、何もしないことは害にならないと感じている。

**反論:何もしないことが「無害である」とは限りません。**加速教育を適用しないという判断を行うことは、それ自体既に介入をしていることとなります。勉学上および社会的ニーズが満たされない子供は、退屈して学校に関心を持たなくなるという研究結果が出ています。

**理由6:加速教育は教育大学で教えられていない。**教師や学校管理者を養成する機関では、加速教育についての決定を行うための教育が行われていない。

**反論:研究資料はいくらでも手に入りますが、教育大学の教授たちは未来の教師にそれを見せていないのです。**このレポートは、未来の教師たちが知識を深めるための一助となります。私たちは、大学教授が研究結果を尊重することが知っています。この情報が講義内容に組み込まれることを願っています。

**理由7:子供たちに無理をさせるのは良くない。**教師や父兄は、加速教育は子供の成長を急がせるものであると見ている。

**反論:加速教育は、生徒が適切なペースで前進することを促進するものです。**急ぐことを心配することで、先に進む能力があり、熱心で意欲のある優秀な子供に適切なカリキュラムを与える機会が失われ、才能ある生徒の学びたいと思う気持ちは無視されます。

**理由8:新しい友達を作ることは簡単でない。**教育者は、加速教育を受けた子供たちが新しいクラスになじめないのではないかと心配する。

**反論:学校環境に順応するという事は、複雑なことです。**加速教育を受ける子供の中には、簡単にまたはすぐに新しい環境に適応できない者もいます。同年齢の生徒から切り離されたと感じている子供たちは、自信を回復するのに時間が必要なこともあります。



## 迷信

加速教育は富める者のものである。

## 現実

才能ある子供は、人種、性別、地域、家庭の経済状態に関わらず、あらゆる層に存在します。加速教育で最も恩恵を受けるのは、さほど豊かでない家庭の生徒です。裕福な親は、子供にやりがいのある進んだ教育を与えることができるからです。家庭や学校による費用負担は最小限で済むので、加速教育により教育の機会が均等になります。



## 「アフリカ系アメリカ人である私には

家庭が貧しく少数派の児童や生徒を教えた経験が多数あります。私は、これまで子供たちの短所を指摘するのではなく、長所を伸ばすことに焦点を当ててきました。加速教育は、難関に挑戦する準備ができていない少数派の生徒や貧しい家庭の生徒に効果のある介入であり、私は支持します。」

バンダービルト大学ダナ・Y・フォード教授

## 加速教育の対象者

このレポートにおいて、聡明である、才能がある、能力が長けている、高い能力がある等の用語は、同義的に用いられています。これらの用語が当てはまる生徒は、加速教育で恩恵を受ける可能性があり、学習能力と準備態勢の点で優秀であることを示しています。

加速教育は、高い学習能力を必要とします。標準テストの得点と教師の観察により、生徒が現在のカリキュラムを習得し、よりスピードが速く高度な学習内容を学ぶ準備態勢ができているかを判断することができます。しかし、カリキュラムの習得は、加速教育に参加する準備態勢ができているかどうかの最初の判断材料であり、考慮すべき事項は他にも多く存在します。加速教育への参加が適切であるかどうかを父兄や教育者が判断する場合、子供のやる気、社会的・感情的な成熟度、そして興味は考慮されるべきです。

加速教育には少なくとも18の異なる種類があり、父兄や教育者は、それぞれの生徒に対する向き不向きがあることに気付くでしょう。例えば、飛び級をした生徒が加速教育で成功するには、学習能力だけではなく感情面での成熟が必要です。しかし、単一科目の加速教育では学習能力が最重要事項であり、社会的および感情的成熟度はあまり大きな懸念事項ではありません。

どれだけの生徒が加速教育を受けるべきでしょうか。この質問の答えは未だに見つけられていません。現在、アメリカ国内で多くの生徒がアドバンスト・プレースメント(AP)プログラムに参加しています。しかし、これ以外の種類の加速教育への参加者がどれだけいるかを知る術はありません。また、過去数十年の間アメリカの学校では加速教育がほとんど受け入れられなかったことから、何名が参加できる可能性があり、また何名が参加すべきであるかはわかりません。今後これまで以上に加速教育が受け入れられ、さらに多くの情報が入手可能となれば、その普及度を理解するのに役立つ統計資料をまとめることが可能になるはずです。

加速教育を受けた生徒がクラスにうまくなじめるかどうかは、学習面での成功のように明確には示されませんが、いずれにしても否定的というより肯定的です。加速教育で交際範囲が広がります。才能のある子供の多くは年上の子供に惹かれるので、友達ができやすくなります。

**理由9:個別の生徒を重要視することは、生徒全員に対する機会均等よりも重要性が低い。**学校教育に関する政治的および文化的論争の中で、個人差は犠牲となった。

**反論:平等と画一を混同する教育者は、全生徒に対して画一的なカリキュラムを同時に用いようとします。**これは機会均等に反します。

加速教育は、ほとんどの子供には必要ありません。それどころか、勉学上および社会的に不利益となることがあります。しかし、それが必要な子供たちにとり、加速教育は適切でやりがいのある教育を受けるための最良の機会なのです。

私たちは、能力を測定し個人差に応じたプログラムを作成する手段を多くを知っています。教育に不可欠なことは、それぞれの子供に何が必要かを知るための柔軟性です。しかし、政治的および文化的圧力によって各生徒の学習に必要なことが均一化されると、柔軟性が失われてしまうことがあり、学習能力の差は黙認されることとなります。

子供たちの学習能力の差を無視することは、民主的でも有益でもありません。すべての教師は、それぞれの子供たちには勉学上および社会的にそれぞれ異なったものが必要であることを知っています。加速教育は、個人差を認識するための確固とした手段であると同時に、個人差に対処する手段でもあります。

**理由10:他の子供たちを動揺させる。**教師は、ある子供が加速教育に参加することで他の生徒が自信を失うのではないかと心配することがある。

**反論:これは重要な問題です。**学校内では、全生徒に対する考慮と気遣いに基づいてすべての物事が行われなければなりません。事実、このような配慮は、アメリカの教育が特別なものである証拠です。

しかし、子供たちは、体育や音楽など様々な分野で、同級生が異なるスピードで成長していくことに見慣れています。学校で1人か2人の子供を加速教育に参加させることがクラス全体に悪影響を及ぼすことはまずありません。

**理由11:子供の知識が途切れたものになる。**教師は、加速教育を受ける生徒が諸概念を理解する上で知識に途切れが生じるのではないかと懸念している。

**反論:加速教育は、学習進度と知識の点で同年齢の子供より相当進んでいるを生徒に対して適用されます。**才能ある生徒は学習速度は速く、知識の途切れはすぐになくなります。

**理由12:失敗すると記憶に残る。**加速教育には失敗例があるが、その数は誇張されており、失敗にはそれなりの理由がある。

**反論:成功例はニュースになりません。**しかし失敗例は新聞に掲載され地域社会で素早く伝わります。人々は、自分の目で見たことでなくても、加速教育の失敗について繰り返し話をしたり、大きく誇張したりするものです。研究者は加速教育が完全ではないことを認めており、時には理想から程遠い結果に結び付くこともあります。しかし、そのような事例のほとんどは、不完全な計画や否定的な態度に起因します。

非常に建設的な介入であっても、絶対失敗しないという保証はありません。しかし、わずかな数の失敗例は、加速教育を選択肢として検討することの重要性を否定しません。周到な計画により、失敗を最小限に抑えることができます。

**重要なこと:加速教育は有効です。**高い能力のある子供の教育方法を検討するとき、加速教育が考慮に入れられなければなりません。私たち自身、そして子供たちを欺くことを止めるときが来ています。







# アメリカにおける 加速教育の歴史

アメリカは、各人には生まれながらに自らの夢を追求する権利があるとの信条に基づいて建国されました。独立宣言では、「生命、自由、および幸福の追求」という普遍的権利が叫ばれました。

わが国の歴史の黎明期、才能豊かな多くの若い学生は、高等教育の夢を追求して大学に進学しました。彼らは、家庭教師の下で高等教育の準備のための自宅教育を受け、また教室が1つしかない学校を卒業しました。アメリカで大企業や大規模な学校制度が一般化される以前は、個人に合わせた教育が一般的に行なわれていたのです。

教室が1つしかない学校では、生徒は自分のペースで学習することができました。教師は生徒のことを良く知っており、生徒の勉強の進み具合を妨げるものではありませんでした。次第に人口が増加してアメリカの文化がより集団的で標準化するにつれ、能力とやる気ではなく年齢で生徒をグループ分けする学校が、教室1つの学校に取って代わりました。

これは教育的判断ではありませんでした。子供を年齢でまとめることを目標とし、青少年の発達についての偏狭な理解に基づいた組織的な判断でした。これは、グループの同質性を認めて対応することに大きな進歩があったことを意味しています。またこれは、産業モデルとしての組織の効率性に対するアメリカ人の信条にも通じるものでした。

個人の違いは称賛されなくなり、教育上の必要性における個人差は極端に顕著なものとなりました。新しく複雑な題材をいかに素早く学べるかを基にして自分の教育を決める権利が生徒から奪われました。

進んだ生徒が大学に早期入学することもありましたが、才能ある生徒に対する情操教育が確立され、進度の速い学生も同年齢の生徒と一緒にまとめられました。放課後の情操プログラムが、1年～3年の飛び級に取って代わりました。自分が学べるペースで学ぶという方法、つまり本当の意味での幸福の追求は、衰退していったのです。



## この問題が異なる理由

歴史的に見て、教育は常に複雑で多面的な事業であり、それゆえ何がうまく機能するかを特定することは困難です。今日のアメリカでは、明確な調査結果を持たない様々な教育方法が実施されています。これらは、個人の信条や政治的な義務を理由として実施されているのです。

介入としての加速教育はこの点で異なっており、数十年に及ぶ調査結果の裏付けがあります。しかし、その調査結果は教育界では無視され、政策として実施されていません。

このため、私たちは次の点を明らかにしたいと思います。(1)加速教育に関する研究は幅広く一貫性がある、(2)これほど深く研究されているのにも関わらず、ほとんど実施されることがない教育実践手段は他にない。





## 加速教育の種類

1. 幼稚園への早期入園
2. 1年生への早期入学
3. 飛び級
4. 継続進歩
5. 自己ペースでの指導
6. 科目別加速教育／部分的加速教育
7. 複式学級
8. 圧縮カリキュラム
9. はめ込みカリキュラム
10. 指導者プログラム
11. カリキュラム外プログラム
12. 通信コース
13. 早期卒業
14. 同時並行／複数在籍
15. アドバンスト・プレースメント
16. 試験による単位制度
17. 大学での加速教育
18. 中高校・大学への早期入学

『加速教育の種類：特徴と問題』W・T・サザンおよびE・D・ジョーンズ、『欺かれた国家』第II巻、第1章、5～12ページ。

## 戦争中

戦争中、アメリカでは学生が大学を短期間で修了することが奨励されました。このような緊急事態に直面する指導者は、伝統や規則よりも能力や技能を重視する傾向があります。

第二次世界大戦直前、オハイオ州立大学、イリノイ大学、およびシカゴ大学は、年少の学生の入学を認めるようになりました。朝鮮戦争中も、多くの大学が同様の措置を行ないました。フォード財団は、16歳未満の学生が軍隊に入る前にフルタイムで大学に在籍するための奨学金制度を導入しました。この制度の終了後も、奨学金制度に参加した大学12校では年少の学生の入学許可を継続しましたが、積極的な勧誘や特別な財政的援助は中止されました。

しかし、フォード財団は、高校生に対して大学が単位と学生資格を提供するカレッジボード・アドバンスト・プレースメント(AP)を1950年代半ばに創設しました。現在では毎年100万人以上のアメリカの学生がプログラムを利用しています。

2004年には、190万という驚くべき数のAP試験が実施されました。この生徒たちは、かつて1教室だけの学校で速いペースで勉学に励んだ学生の子孫なのです。

進歩する機会が与えられれば、聡明な生徒たちは今日も「イエス」と答えるのです。

## アメリカのリーダーの多くは飛び級をした

加速教育は、アメリカの教育における歴史的な構成要素の一部です。加速教育を受ける生徒たちは、アメリカのリーダーたちと同じ道を歩んでいるのです。

公民権運動の指導者でノーベル平和賞の受賞者であるマーチン・ルーサー・キング・ジュニアは、15歳で高校を卒業しました。

芸術の分野では、南部を代表する作家ユードラ・ウェルティや詩人のT・S・エリオットが加速教育を受けました。医学および生理学の分野では、ジョシュア・レダーバーグが最年少でノーベル賞を受賞しました。科学の分野では、ジェームス・ワトソンとチャールズ・タウンズは飛び級をしました。最高裁判所のサンドラ・デイ・オコナー判事は16歳で卒業しました。どれも加速教育が成功した顕著な例です。

加速教育の成功例は、昔からあります。W・E・B・デュボアは、飛び級をして高校を16歳で卒業しました。T・S・エリオットは3年でハーバードから学士号を、1年で修士号を取得し、そしてノーベル文学賞を受賞しました。

飛び級をした生徒は社会性がないとの迷信がありますが、実際にはそのような生徒こそがアメリカ社会の指導者となる傾向があります。自らの夢を実現した若者は、私たちの国の夢が本当は何なのかを理解するためのインスピレーションを与えることがしばしばあります。

偉大な指導者が社会に早く出るとは、すべての人々の利益となります。アメリカの歴史の早い時期においてこの考えは理解され、今日でもそれは真実です。加速教育は、教室でやる気をなくして孤立しているが才能あるひとりの子供に関する問題ではありません。これは、数千人の子供に関する問題、延いてはアメリカの将来に関する問題なのです。



### 「優秀性の語源は

ギリシャ語に由来し、その意味は他者を凌ぐことや偉大な人物となることではなく、作物が育つように自然に立ち上がることです。この言葉の最も古い語源は、ギリシャ語の丘に由来しています。

「丘を想像して下さい。丘があるのは平野部を平らに感じさせるためではありません。空を揺るがすためでもありません。丘はただそこにあるのです。理由はわからなくても、私たちは丘のない世界には耐えられないということだけは知っています。」

ジョリー・グラハム、「知の優秀性を評価するとき」、「ビジョン」第5巻1号、7ページから。

ジョリー・グラハムは「一つになった平原の夢：新詩作から」で1996年ピューリッツァー賞を受賞。このほかマッカーサー財団フェロースhipなど数々の賞や栄誉を受けています。







# 早期就学に 「イエス」ということは簡単

最初に気がつくのは母親と父親です。ある母親は、3歳になる自分の息子がシャンプーのボトルを読んでいることに気がつき、驚きました。

しかし、驚くことはこれだけではありませんでした。

多くの学区では、滑らかに文章を読むことができ、数を数えることができ、そして1日親と一緒にいなくても大丈夫なほど社会的に成熟している4歳児を就学させることが通常認められていません。

これは残念なことです。調査によると、子供が進んだ能力を持っているかどうかに関して最も確に判断できるのは両親であるという結果が示されています。また両親は、子供がどの時点で就学に適した段階まで成長したかを判断することができます。

また、両親は、自分の子供の能力を理解し、それに見合ったプログラムを与えることに対して特別な関心があります。

進んだ能力を持つ子供の可能性を開花させるために効率的で効果的な方法は、早く就学させることです。State of the States Gifted and Talented Education Report(才能があり有能な子供のための教育状況に関する報告書)最新版(2001-2002)によると、多くの州では早期就学に関する明確な方針が定められていません。学校に対して明確な方針が示されていないことは、読むことができ、学習意欲があり、そしてさらに学びたいと思う4歳児が直面する最初の問題です。行政上の障害がない場合でも、多くの学区では5歳未満の子供を就学させることに難色を示します。

この消極的な態度が問題を引き起こすのです。子供は、就学と同時に学校に退屈し、その後も退屈し続けることとなります。簡単すぎる授業を何年間も受けることとなります。通常、児童に加速教育を行うことが考慮されるまでには数年かかり、その時点までには多くの貴重な時間が失われてしまうのです。

## 優秀な未就学児の一般的特徴

- ・ 言語能力の習得が早い
- ・ 計算がよくできる
- ・ 注意を集中できる時間が長い
- ・ 早くから抽象的論理能力を示す
- ・ 早くから時間に関心を示す



## 「加速教育は、

教育分野において最も興味深い現象です。研究で明らかになったことと多くの教育者が信じていることがこれほど大きく隔たっている問題は、他には見あたりません。加速教育に関する研究のすべてが肯定的な結果を示し、適切な加速教育による恩恵は非常に明らかなです。なぜ教育に携わる者がこれに反対するのか、理解しがたいものがあります。」

ジェームス・H・ポーランド、コロンビア大学教育学部教授

「英才児へのプランとプログラム実践」、1989年（185ページ）

専門家も、「イエス」と言うことが子供を救済する方法あることを認めています。

## 退屈の要因

子供が学校で手ごたえのある勉強を与えていないのではないかと最初に疑うのは、一般的に両親です。父親は、読みごたえのある本やパズルを与えると、子供が嬉しそうにすることに気がつくでしょう。

このような両親の観察が正しいことを裏付ける科学的な証拠はいくらでもあります。慎重な判断に基づいて早期就学を行う児童は、一般的に勉学および社会生活の上で非常に良い成果を見せます。

その理由は明らかです。早期就学を行う子供は、退屈であるということがどのようなものなのかを学ぶことなく学校生活を送ることになります。適切なクラスに編入した子供は、学校とは楽なもので勉強しなくてもよい成績が取れると考えるのではなく、進歩するための努力は勉学において重要なものであることを理解します。

私たちは、非常に優秀であった子供が向上心のない大人になった例を知っています。学校は楽なものであったため、怠惰が身についてしまうのです。早くから大きな課題に挑戦させることで、早く読めるようになりたいと思う子供を向学心旺盛な若者に育てることができます。

## 不都合な知識の途切れを避ける

小学校の早い段階で加速教育を行うことで、知識と技能の途切れを最小限に抑えることができ、わずか数週間のうちに元通りに修復されます。飛び級は、長期的な知識の途切れにつながりません。

## 古い友達と別れ、新しい友達を作る

私たちは、飛び級をした子供が友達と離ればなれになってしまうことを心配することがあります。早期就学をしてそのあと同じ学年で進学すれば、優秀な児童は慣れ親しんだクラスメートと離ればなれになる必要はありません。入学した最初の日から適切な場所で勉学に励むことができるのです。

また、これに関して別の話があります。才能ある生徒は、同年齢の他の生徒と友達になることがそんなにありません。同年齢の生徒よりも感情面および社会面での成熟度が高い傾向があり、友情についての考え方が異なるのです。多くの子供が友達とは遊び相手であると考える年齢で、聡明な生徒は考え方や感情を共有できる真の友達を求めているかもしれないのです。

聡明な生徒の父兄たちは、自分の子供が、勉強や知的関心の点で共通する様々な年齢の近所の子供たちを、自然に惹き付けているようだと感じることがよくあります。このような子供たちが楽しむゲームや読む本は、年上の子供たちのものに近いのです。年上の子供たちは、そのような年下の子供を喜んで受け入れます。

したがって、才能ある児童生徒にとり、上の学年に移ることは友達から離れることではなく、彼らを受け入れてくれる友達のいるところに移るといったことなのです。

## 学校の社会的側面

多くの父兄が持つ切実な疑問、つまり年上のクラスに入る子供はクラスメートとうまくやっていくことができるのかという心配に対し、これまで多くの研究がなされてきました。

それに対する回答は、「注意深く慎重に選別された上で早期就学した聡明な児童のほとんどすべては、問題なく年上のクラスメートに適合できます」です。つまり、年が下でも友達是可以するのです。実際のところ、興味を同じくする年上の児童という方が、同年齢の子供というより楽しいのです。一方、この逆の不運な例もあります。選ばれて早期就学したのではなく、偶然年齢が低かった子供たち(たとえば年度末生まれの子供たち)は、年上のクラスメートよりも成熟度が見劣る傾向があります。

この例でも分かるように、年齢は子供の準備態勢を判定する指標のうちの一つでしかないのです。しかし、年齢に加えて技能および成熟度を考慮することで、状況は一変します。

既に先に進んでいる子供が早期就学を行った場合には、社会面での問題が発生することはほとんどありません。

## 欠を持つ

学習面で進んでいる子供でも、身体機能の面ではその年齢相応であることがよくあります。つまり、書いたり、切ったり、絵を描いたりすることをうまく行えない場合があります。

疲労も懸念事項の一つです。4歳児は6歳児よりも疲労しやすいのです。

しかし、興味深いことに、身体機能や持久力に対する懸念に反して、早期就学で幼稚園や1年生に進学した子供は、優れた認知能力を持ち合わせているため、あらゆる分野で年上の級友と同等かそれ以上の成績を修めるとい調査結果が示されています。

加速教育への参加に際し、関与する大人の姿勢が重要な役割を果たします。関与する大人が十分な情報を得た上で決定を行い、児童の成長に対する努力を惜しまなければ、早期就学を行った聡明な児童は成功します。

始めに「イエス」と言うことができれば、その後の成功への道程はスムーズなものになります。子供たちは、世の中は準備が整った者に対して対応するのだということを理解するのです。

## 早期就学は常に良いことか

早期就学を考慮する際に最も難しいことは、その時期の判断です。成長段階の早い時期にいる子供の個性がどのように学校やクラスメートと調和するかを判断することは、容易なことではありません。

また、早期就学を一度行った後でその過程を元に戻すことは難しいという別の問題もあります。子供の成長が速いと判断して早期就学を行ったが、後で再び幼稚園や1年生を繰返させることは望ましいことではありません。

間違った判断をすることを恐れるために、正しい判断ができない場合があります。しかし、慎重な検査を行い、「アイオワ加速教育基準」のようなガイド手段を用いることで、子供がやりがいのある環境で最良の教育を受けられるよう、両親や教育者は就学に最も適した時期を正しく判断できると、多くの専門家は結論づけています。

\*「アイオワ加速教育基準」サイドバー、23ページ参照。





# 小学校での飛び級

退屈のあまり、自ら校長室に行って飛び級を要求する子供がいます。また、生徒が同級生よりずっと進んでいると教師が気づくことや、父兄が自分の子供には学校が簡単すぎるのではないかという感覚に悩まされることもあります。

「退屈している」という言葉は、呪文のように絶えず親の耳に響くことがあります。

多くの学校では優れた情操教育プログラムが実施されていますが、進んだ生徒にはそれだけでは十分でないこともあります。1～2時間の課外活動は、普通の授業にやりがいを見いだせない子供に対する解決策にはならないのです。このような生徒には、何らかの形で加速教育のような解決策が必要です。

「才能ある子供にとって加速教育ほど効果がある手段は他にはありません」と、この問題の専門家であるミシガン大学のジェームズ・クーリック教授は述べています。

クーリック教授は、才能ある子供たちが学校生活をどのように送っているかを25年以上にわたり研究してきました。教授は、教師が加速教育には懐疑的であることを知っていますが、同時に教授の研究の多くは加速教育が有効であることを示しています。

教育研究における他の指導者も、この結果に大きく賛同しています。具体的な統計数値を日々扱う専門家の目には、飛び級がもたらす効果は明らかなのです。

クーリック教授が最も注目しているのは、加速教育がもたらす長期的なプラス作用です。飛び級をした生徒は上級学位を取得する可能性が高く、同教授は飛び級こそが生徒の達成を助長するものであると信じています。

「これらの研究から得られる総合的な結論は明らかです。加速教育は、聡明な生徒の学業成績に大きな差をもたらします」とクーリック教授は述べています。



## ジェニーから教師への手紙

3年生のジェニーは、加速教育について話し合うために、この手紙を先生に出しました。

S先生へ

私に出される問題は簡単過ぎて、勉強したいという気持ちがなくなってしまいます。私にはほとんどの答がすぐにわかるので、他の生徒が追いつくまでいつも待たなければなりません。大学に入学することが私にとって一番いいことだと思うのですが、今はそれができないので、できればもう少し難しい問題をもらえませんか。たとえば、リンカーン小学校かリンカーン中学の他の学年に編入することはできませんか。私は5年に入れればいいと思います。だめかもしれませんが、一度入ってどんな感じかを見たいと思います。リンカーン小学校を辞めてもいいと思っています。なくしたくないと思うような本当に大切なものは何もないし、本当の友だちもいないのですから。

ジェニー

「アイオワ加速教育基準」第2版、16ページから転載





## 「私たちがそれほど早く成長して

いないことは確かです。というのも、自分の中にある子供の面をためらわずに見せることができるからです。高校に入ると、誰もが自分の年齢よりも年上であるように振る舞うので、早く成長することが強要されます。ここ(ワシントン大学早期入学プログラム)では、そのように振る舞う必要はありません。ためらわずに年下のように振る舞うことができます。」

ワシントン大学早期入学プログラムの学生  
「異なるストローク」、K・D・ノベル、T・アーデント、T・ニコルソン、およびA・ザモラ、『優秀な生徒に対する中等教育ジャーナル』、1998/1999年冬号

## 子供はやりがいのある目標を望んでいるのか

加速教育は、学業面では賢明な手だてですが、簡単に実行できるものではありません。慣れ親しんだ場所を離れて見知らぬ場所に向かうことは、簡単な決断ではありません。

自発性は、加速教育における大切な要素です。学業の面では遥かに抜きん出ているが飛び級したくないという子供は、おそらく飛び級をさせない方がいいでしょう。加速教育が必要なのは、やりがいのある目標や先に進むことを熱心に望む生徒です。

親、教師、または校長に対して、子供自身ももっとやりがいのある目標を求める場合、この子供には加速教育が適していると思えることができます。

## 向上心は早くから芽生える

8歳で飛び級をすると、その子供が22歳になったときに思わぬメリットがある可能性があります。研究によると、加速教育を受けていない学生と比較して、加速教育を受けた学生は、学士号以上の教育を必要とする職業に就こうと努力する傾向が強いことが明らかになっています。

どのような違いを研究者は見つけたのでしょうか。

1974年に修士過程への進学を希望した学生数は、加速教育を受けた学生の58%、それ以外の学生の24%でした。1983年になるとこの差は縮まりました。大学教育は、現代の経済生活における必須事項となったからです。そうとはいえ、修士号以上の取得を希望する学生数は、加速教育を受けた学生の88%、それ以外の学生の73%という数字が示されています。

この調査結果は長い間知られてきました。加速教育を受けた子供たちは、向上心の強い大人になるのです。

## 学業の進歩

加速教育を受けた生徒は、飛び級をしたあと極めて高い成績を修めます。学力テストでも、加速教育を受けた生徒は加速教育を受けない年上の生徒

と同じように良い成績を修めます。

このようなテストの結果を見れば、飛び級をした子供が新しいクラスメートに見劣りしないことが明らかになります。しかし、本当の見返りは、飛び級をした優秀な生徒と飛び級をしない優秀な生徒とを比較したときにはっきりします。

飛び級が適切に行なわれた場合、飛び級をした生徒は新しく編入した上の学年でも非常に良い成績を修めます。年下の生徒は、一般的に見て当然不利であるわけなので、これは驚くべきことです。

数学と国語の成績は、通常年齢に深く関わります。しかし、年下であることによる当然のハンデにも関わらず、加速教育を受けた生徒は1年上の課目でも素晴らしい成績を修めます。

加速教育は時間という贈り物です。1年飛び級をすることは、その子供にとり学校在籍期間の12分の1が無駄にならなかったことを意味します。2年飛び級をすれば、教育期間の6分の1が無駄にされることなく本当の学習に使われるのです。45ページにある、加速教育を受けたアレックス・ハンソンのインタビューを読んでください。

## 加速教育の代替案の効果は薄い

多くの学校は、才能ある生徒の勉学上および社会的・情緒的な必要性について様々な処置を施しています。よく知られた取り組み方法には、能力別グループ分け、情操活動、引抜き授業、クラス分け、独立プロジェクト、協力学習などがあります。また、生徒の学習機会を増やすために、特定課目のプロジェクト、校外学習、チェス、競技会等が検討されています。このような取組方法は、それぞれ価値があるものです。

高い能力を持つ子供の欲求は、補習タイプの追加活動で部分的に満足させることができるでしょう。これらは多くの生徒に対する教育に役立つものであり、重要で有益な活動です。生徒に役立つものは何であれプラスの効果があります。私たちは、このような活動の指導者が情操活動の有効性を高めるための素晴らしい仕事をしていることを経験上知っており、選択肢としてこのような取り組み方法を支持します。

しかし、このような取り組み方法には、高い能力を持つ生徒に対して加速教育と同等の効果があるという説得的な調査結果が報告されていません。多

## 「大人になった才能ある子供に

調査を行ったところ、加速教育を受けたことに対する後悔は示されていない。むしろ、もっと先に進まなかったことを後悔している。」

D・ルビンスキー、R・M・ウェブ、M・J・モアロック、C・P・ベンボウ(2001)、「10,000人に1人：才能ある子供の10年間の追跡調査」、『応用心理学ジャーナル』、第86巻、718～729ページ。



## 統計で見ると

毎年200,000人の7年生と8年生が大学入学のためのSATまたはACT(いずれも大学進学適性試験)を受験しています。その大半は、4～5歳上の高校3年生の生徒と同等の成績を修めています。

テストを受験したその200,000人(中学生)のうちの成績上位者、つまり高校生と同等またはそれ以上の成績を修めた者は、特に才能があると言えます。調査によると、このような生徒は高校1年分の内容を3週間で習得できるという結果が示されています。

それどころか、SATで最も高い成績を修めた成績上位者(中学生の中で)の数名は、高校1年分の内容をわずか1週間半で習得できるのです。

くの研究支援を受けている能力別グループ分けにしても、進んだカリキュラムが使用された場合のみに、高い能力を持つ生徒に対する効果が出るという結果が報告されています。

情操プログラムなら、生徒は同年齢でまとめられ、教師は子供が社会性や感情面で悪影響を受けることを心配する必要がないので、それで十分ではないのかという意見があります。しかし、才能ある生徒に対する情操教育に進度を速めレベルを高めた内容が含まれていない場合、効果を期待することはできません。

カリキュラムの速度はそのまま才能ある子供だけをまとめても、学習効果は上がりません。重要なのは進度の速いカリキュラムです。

才能ある生徒がまとめられ、別のクラスで速度が同じカリキュラムが教えられることもあります。この効果を調べた研究者は、驚くべき事実を発見しました。能力のある生徒に通常のクラスと同じカリキュラムを与えて場合、成績に対する効果はゼロであったのです。

難易度が同じ数学を教える特別にグループ分けされたクラスには、学習上の効果はまったくありませんでした。やりがいのある教材を与えられない才能ある生徒で満たされた教室は、学習上まったく利益がないのです。

特別なグループに対して別のカリキュラムが与えられたなら、学習上のメリットが少しはありますが、加速教育ほどの効果はありません。

聡明な生徒の学習効果を高める最善の方法は、カリキュラムの進度を加速し難易度を上げることです。

## 社会的な懸念

多くの父兄は、子供の成績への効果よりも、友人関係のことを心配します。しかし、勉強はできても孤独で話し相手がいない生徒というイメージは、調査で明らかになったものとは違います。

研究によると、加速教育を受けた生徒は、学校活動に積極的に参加し、自分自身を肯定的に捉えています。

自尊心と加速教育の相関関係を理解することは、簡単なことではありません。自尊心が高まることで成績が向上するのか、または成績が向上することで自尊心が高まるのかは、調査では明らかになっていません。

聡明な子供が他の標準的な子供たちとともに学習する場合、学業に対する自尊心が過剰になりがちです。その子供たちが加速教育を受け、自分と同等の知識を持つ生徒と一緒にいると、自己に対する見識はもっと現実的なものになり、しばらくの間自尊心が挫かれることがあります。これは、井の中の蛙現象、と呼ばれています。

通常、このような勉強に対する自尊心の喪失はそう長くは続かず、自信はすぐに戻ります。さらに良いことは、加速教育を受けた生徒は、新しいクラスでも友達が出来て仲間に入ることができるのだということを体験することで、自尊心がこれまで以上に向上することです。



## 飛び級の決定： アイオワ加速教育基準

飛び級をさせるかどうかの判断は、常に難しいものです。しかし、その選択に役立つことが立証されている基準があります。「アイオワ加速教育基準」(The Iowa Acceleration Scale, IAS)は、全米50州の学校、およびオーストラリア、カナダ、ニュージーランドで使用されています。

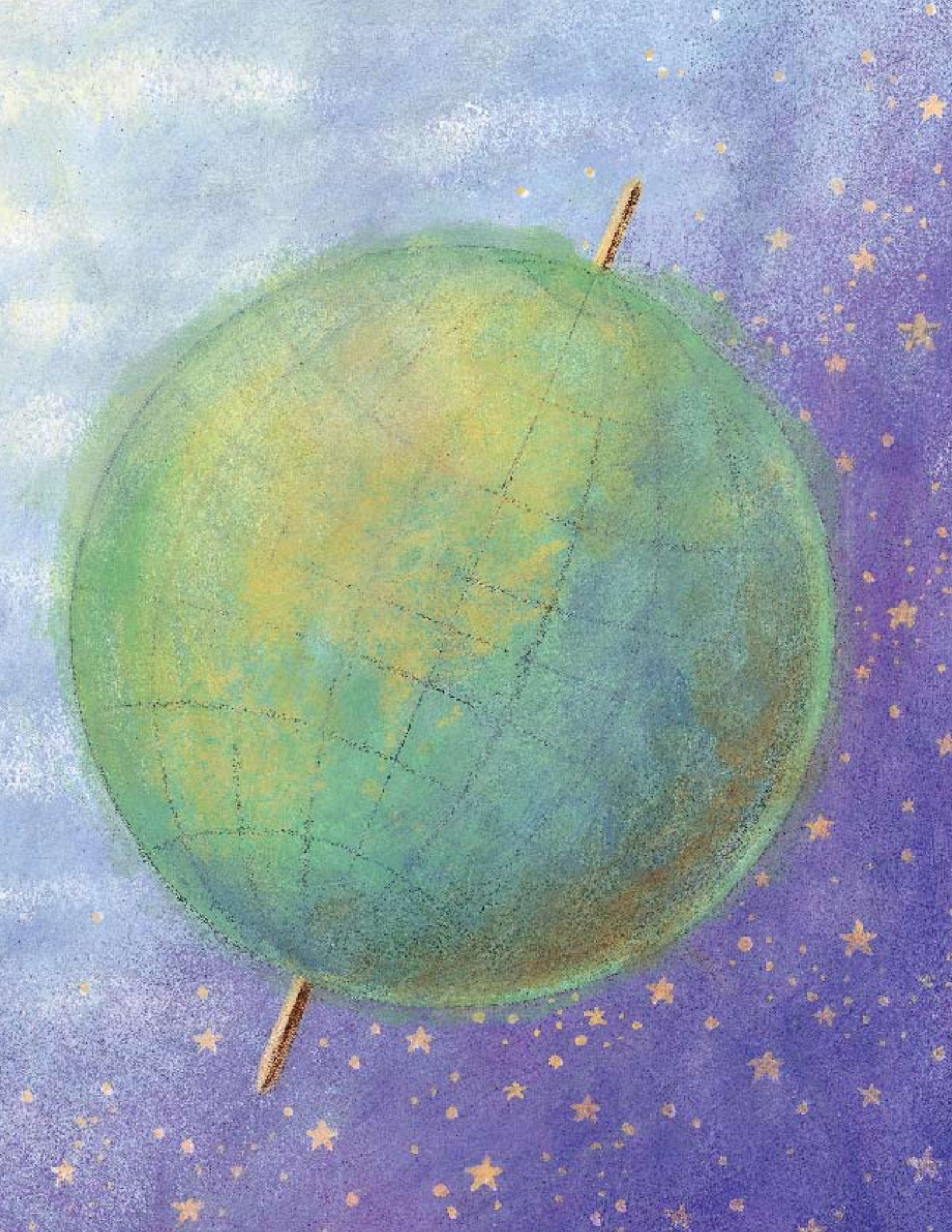
IASには、子供の年齢、学校のカリキュラム、兄弟姉妹が同学年にいるかなどの10項目があり、あらゆる側面が考慮されます。10項目には、一般的な学校および家族環境に関する情報、知能指数、兄弟姉妹の情報、加速教育に対する生徒の個人的な気持ち等が含まれています。また、学校歴および各種技能調査、適性テスト、学力テストが行われます。最終的に、これらすべての項目の合計点が計算されます。

IASは、加速教育の決定においてあらゆる要素を考察することを望む両親、教師、そして校長にとって、極めて有用な手引となります。IASには、10項目のすべてが解説された手引書および事例研究と用紙記入例が添付されており、また加速教育の判断方法について詳しく知りたい教育者や両親のために、関連研究の要約も含まれています。

「アイオワ加速教育基準」は、簡単に実施できるよう構成されており、すべての必要データを組織的に収集することができます。またIASにはコストがあまりかからないので、どの学区でも簡単に実施できます。

「アイオワ加速教育基準」およびIASマニュアル第2版は、Great Potential Pressまたは[www.giftedbooks.com](http://www.giftedbooks.com)から入手できます。







# 才能発掘革命

才能を発掘するという観念が生まれるまでは、聡明な子供たちは自分がある土地に縛られていました。近くに援助してくれる教師がいれば幸いですが、そうでなければどうすることもできませんでした。

ジョンズ・ホプキンス大学のジュリアン・スタンレー教授は、数学に長けた生徒を60年以上研究してきました。ある日、教授自身の一生を変えることになる12歳の少年に出会いました。

スタンレー教授は、「大学生にフォートランの手伝いをしている12歳の中学生を見つけたのです」と回想しています。「1969年1月の時点で彼は13歳で8年生でした。準備なしにSAT(大学進学適性試験)を受けさせたところ、大変な好成績でした。」

「彼の才能に見合った教育を見つけようと懸命になりました。レベルの高い高校を幾つも訪ね、アドバンスト・プレースメント(AP)のコースに彼を編入するよう頼んだのですが、断られました。」

この少年は、地元の学校のカリキュラムを受け入れる以外、どうすることもできませんでした。残された唯一の選択は、大学進学でした。

「彼は13歳でジョンズ・ホプキンス大学に進学しました。当初は、物理学、コンピューター科学、および微積分学を学び、非常に良い成績を修めました。17歳までに、学士号と修士号をジョンズ・ホプキンス大学から取得したのです」と、教授は語りました。

「私は慎重に対処し、彼が例外的な子供なのだろうと考えました。しかし、別の母親から同じような子供についての電話があり、私の研究が始まったのです。」

1971年、スタンレー教授は、数学的才能のある子供を支援するための助成金266,100ドルをスポンサー財団から受領しました。これが、現在では数千人を支援する大きな夢の第一歩でした。



## 才能発掘とは何か

才能発掘は、才能教育におけるあまり知られていない慣習です。

毎年、2年生から9年生の生徒は、高度な学問的能力を測定するためのテストを受験します。通常このようなテストはSATまたはACTであり、特定科目の能力を測定するために開発された特別なテストの場合もあります。

多くの子供にとり、1年間における真の難関はこの数時間だけです。

この才能発掘の結果により、勉強のできる生徒の多くは、大学で行なわれる夏季集中プログラムやその他の特別プログラムに参加します。このようなプログラムは、やりがいがあるものであり、仲間と知り合う機会を彼等に与えます。

では、なぜこれまで才能発掘についてあまり聞くことがなかったのでしょうか。

それは、これまで誰も話さなかったからです。情報は力です。才能発掘が役に立つような子供をご存知でしたら、添付書類Fに記載された機関のいずれかに連絡してください。

## 才能発掘の実際

ケイティー・マックウェイドは、アイオワ州ガズリーセンターで育ち、小学校で行なわれた才能発掘に参加しました。これによって彼女は夏季講習に参加することになりました。最近大学を卒業した彼女は、まだそのことを鮮明に記憶しています。

「夏季講習では、勉強が好きなほかの子供たちに会うことができた」と、彼女は話します。「夏季講習では、勉強が好きと構わないのです。6年生のときにベオウルフを読んだのを覚えています。授業では抜粋が用意されました。夏季講習では、成績のためではなく、学習そのものを目的として勉強することができました。」

## 最初の才能発掘

大きな夢は、どれも最初は小さなものから始まります。

「1971年、私は優秀な何人かの少年少女を教えました」と、スタンレー教授は語ります。「しかし、彼ら以外にも才能のある子供がいることに気がきました。私たちは、才能ある生徒を発掘するために、新聞や口コミなど、様々な方法を試しました。うまくいったのですが、これは氷山の一角でしかありませんでした。」

教授は、本格的な発掘が必要であることを痛感しました。

私たちは、1972年にボルチモア地域で才能発掘を始め、学校では得られない援助を必要としていた450人を選択しました。

スタンレー教授は、聡明な生徒を支援するという生涯の仕事に出合ったのです。

「このような子供たちの才能に敬服するだけでなく、支援しようと決め、その夏、速いペースで進む数学の授業を始めました。」

## 12人から200,000人へ

才能発掘の最初の年の生徒数は1人、次は12人でしたが、すぐに数千人になりました。

「1979年には2,000人の生徒が選ばれました」と、同教授は回想します。「プログラムを管理するために、ジョンズ・ホプキンス・タレントイド・ユース・センター(CTY)が設立されました。」

「今日では、このCTYおよびそこから分離独立したデューク大学、ノースウェスタン大学、およびデンバー大学の同様の施設で、20,000人から25,000人の学生に対して夏季講習が実施されています。また、才能発掘の一環として、200,000人の7年生と8年生が毎年SATを受けています。」

5年間で100万人の非常に優れた中学生が、通常よりも最低4年間早く大学の入学試験を受け、その多くが驚くほどの成績を修めています。彼等は、自分を試すために試験を受けているわけではありません。大事なことは、才能発掘試験によって、このような生徒に対して本当の機会が開かれるということです。また、彼らの多くは、本当にやりがいのある授業を受け、自分と同じようにもっと学びたいと思っている仲間に出会う機会も得ることができるのです。



## 才能発掘で子供が得るもの

### 本当の能力テスト

「まず、彼らの本当の能力を見極めます。彼らがどの程度早熟であるかを判断するのです。一般的に彼らは学校で1番です。それ以上のこともあります」と、ジュリアン・C・スタンレー教授は語ります。「自分で思っている以上にずっとできる子もいますし、それほどではない子もいます。この才能発掘プロジェクトに参加するすべての生徒は、学力的に少なくとも上位5%以内であり、つまり同年齢の生徒20人中のトップなのです。」

### 参加者にとっての機会

才能発掘は、加速教育と密接に関連しています。才能発掘に参加する生徒は、才能発掘センターが夏休みおよび年間を通して実施する特別加速教育プログラムに参加することができます。

### 勉強が好きな新しい仲間に出会う

夏季講習は、学ぶことが好きな聡明な他の子供たちに出会う絶好の機会です。この子供たちは、本当の知的な仲間です。参加者の多くは、夏季講習で親友を見つけます。このようなプログラムの授業には、加速された内容を学ぶことと、能力のある同年齢の仲間に出会うことという、2つの利点があります。

### 大学生生活を体験する

大学のキャンパスで生活し、大学の授業に出席することで、子供たちは大学生生活を体験することができます。やりがいがあるだけでなく、未来を想像し、その準備を進めることにもなります。

### 才能発掘に参加するには

多くの大学に所属する才能発掘組織は、2年生から9年生の児童生徒に対する学習才能発掘プログラムを実施しています。才能発掘には、テストに対する特定のガイドラインが定められています。具体的な情報については、添付書類Fをご覧ください。





# 難しい選択： 高校での課題

アメリカの高校には、学業に優れる数多くの生徒が、その才能を認められることなく埋もれてしまっていることがよくあります。

映画では、標準的な郊外の高校にいる孤独な秀才が一人だけ出てくる話がよくありますが、調査によれば、高校を記録的なスピードで終了できる能力を持つ生徒は驚くほど多数存在することが判明しています。

才能発掘により、中学校在籍者の中に高校での勉強の用意ができていた生徒が何名いるかを予想することがあります。

このような生徒に目を向ける必要があることは明らかです。彼らの成績を見れば、やりがいのある目標を持つことがいかに大切かがわかります。

このような中学生の高校進学時には、彼等を受け入れる準備が整っていなければなりません。

## カッコいい、カッコ悪い

能力のある生徒は、難しい選択を行わなければなりません。仲間はズレにされてまでも勉強をするべきなのか？それとも、仲間に受け入れてもらうため自分の能力を抑えるべきなのか？驚くべきことに、自分の能力を人に見せてはいけないというプレッシャーは小学校低学年から始まっていることが、研究で判明しています。中学までには、能力ある生徒はあまり目立たなくなります。

高校では、カッコよさが最大の関心事項となり、物事が「カッコいい」か「カッコ悪い」で判断されるようになります。勉強がよくできる生徒にとり、他の生徒がかっこいいと感じる多くのことは無意味で退屈なものです。

自我形成が行われる重要で不安定な時期に、彼等は孤独になるのです。

普通の高校生は、パーティー、友達、恋愛などのことを考えます。しかし、調査によれば、学業に秀でた生徒たちは、このようなことに加えて別のことも考えています。考えることを考えているのです。

彼らは勉学の面での刺激を求めています。勉強が好きで、多くの科目を学びたいと考えます。彼等には、意欲がある能力の高い生徒用に特別に作成されたカリキュラムが必要です。

このような才能ある生徒は、物事に対する姿勢が他の生徒と異なるので、やりがいのあるカリキュラムを必要とします。別のカリキュラムが与えられない場合、十代の夢は簡単に退屈に転化し、一生の機会が失われることとなります。

## 戦争、平和、そして失業

国が危機に直面すると、才能ある高校生に加速教育を施すことが、突然公衆の関心事になります。しかし、大恐慌時代には、失業者が増加することへの懸念から、このような慣行は嫌がられました。その当時、常時勤務の仕事を探す高校生はいなかったことでしょう。

1940年代のような戦時中、高校生には公式の政策として加速教育が行われました。国家は、技能労働者と教師を必要としていたのです。高校とその最も優れた生徒がこれに応えました。

国家は、教育とは子供のためにあることを理解しなければなりません。人々と適切な機会を結び付けることが優秀性を達成する近道であると気付くために、国家の非常事態を待つわけにはいきません。高校の一般カリキュラムを駆け抜けることができる生徒を見つける方法を模索し、広めていかなければなりません。

教育の核心は優秀性の達成です。危機に対する国家の対応策ではありません。







# アドバンスト・プレースメント のすべて

2004年度、190万のアドバンスト・プレースメント(AP)試験を100万人を超える生徒が受験したことをご存知でしたか?つまり、100万人以上の生徒が、高校在学中に大学レベルの科目を受講したのです。フォード財団が1950年代に始めたAPは、現在ではわが国最大の加速教育プログラムになったのです。

AP革命により、全米の小さな町から大都市まで、居住地域に関わらずすべての生徒が大学レベルの勉強を体験することができるようになりました。科目は意欲をかき立てるものであり、終了後に試験に合格すれば大学の単位が発行されます。

AP試験は、科学の全科目、いくつかの外国語、文学、数学、美術、音楽など34科目で実施されています。現在、60%の高校で、最低1科目のAPコースが用意されています。

事実、大学進学を目指す上級生の3人に1人以上がAPコースを受講しています。APクラスの人気が高い理由は明らかです。

高校在学中に大学の単位を取得しておけば、退屈な必須科目や大講義室で行われる入門コースを取らずに済み、もっと興味を持てる進んだ講義を早く受講することができるのです。

これはAPのメリットの一部にしか過ぎません。複数のAPコースを受講してAP試験を受験することで、大学を早期に卒業することができ、また時間と学費を大きく節約することができます。



## アドバンスト・プレースメント(AP)とは?

アドバンスト・プレースメントは、高校で受講できる大学1年目の科目です。全米AP試験により、高校に在学する生徒は大学の単位を取得することができます。



### ご存知でしたか？

- ・ APクラスを受講しなかった大学生の学士号取得率は33%です。
- ・ APクラスを1 課目受講した大学生の学士号取得率は59%です。
- ・ 2課目以上のAPクラスを受講した大学生の学士号取得率は76%に拡大します。

参照：「ツールボックス解答：勉学密度、出席パターンおよび学士号取得」、<http://www.ed.gov/pubs/Toolbox/toolbox.html>

## APコースにより物事に対する姿勢が変わる

100万人を超える生徒がいるということは、一つの社会運動といえ、これほど大きな運動が国家に変化をもたらすことは簡単なことです。

APコースおよび試験を受ける生徒数が急激に増加したため、研究者はAP受講者のその後に興味を抱くようになりました。この答えは、データからすぐに割り出すことが出来ました。

AP受講者は目的意識が強い。

高校卒業生の43%は、33歳までに修士号を取得しています。しかし、AP受講者に限定すると、その割合は76%に急上します。

AP受講者4人のうちの3人以上が、15年以内に修士号を取得するのです。

さらに次の疑問が出てきます。小学校1年生から高校までの間に利用できる他の加速教育プログラムが多く存在したとすれば、わが国の教育事情は異なったものになるのでしょうか。

## APにより加速教育が変わる

APプログラムの驚異的な成功により、加速教育が優秀だが孤独で社会性のない生徒のためのものであるという古い神話は打ち砕かれつつあります。APプログラムの規模だけで判断しても、毎年100万人以上の生徒がこの制度からメリットを得ていることがわかります。

APは平等化を推進します。APは、大学レベルの実質的な内容に関する知識を生徒が持っていることを証明するものです。その生徒が、全国で最も貧しいまたは最も小さな高校に通っていたとしても、AP試験とコースによりその生徒の素質が見出されるのです。これは、国内で最も裕福あるいは最大の高校で行われているものと同じ水準の教育なのです。

APのようなプログラムは、条件を均等化し、すべての生徒に平等な教育機会を与えます。

APの親組織であるカレッジボードは、少数派や低所得家庭の生徒の数が多き学校でのコースを実施に取り組んでいます。また、地方の学校の参加も奨励しています。APプログラムの大きな利点は、プログラムを採用する高校が増加することで、すべての社会経済的および文化的背景を持つ生徒にも受講の機会が増えることです。

最終目標は、アメリカの高校すべてが参加することです。

## APプログラムの社会的メリット

APプログラムが広まることで、その最大の利点が明らかになってきました。それは場所です。高校に残りたい生徒は高校に残り、友人、同年齢の仲間や両親との時間を過ごすことができます。

生徒の多くは勉学の面で進んでいても、まだフットボール、チアリーダーの練習、家庭料理、そして卒業ダンスパーティーを楽しみたいと思うことでしょう。

APは、頭脳を旅に出し、同時に心を家に留めることが可能です。

## APコースだけでは必ずしも十分ではない

勉学が進んでいる生徒の多くにとり、APコースが高校生活の主要部分であることがしばしばですが、APのコースだけでは十分ではないかもしれません。他の大学の課目の受講や、予定より1年ないし2年早く大学に入学することが、生徒にとって本当に必要なことかもしれません。

APは素晴らしい制度ですが、解決策の一つではありません。



## APプログラムの影響

ラケイラ・ジャクソン  
デモイン、アイオワ州

### ラケイラは高校で6つのAPクラスを受講

「APコースを受講するようになって、大学での勉強に対する準備ができたような気持ちになりました。選択したクラスでは、勉強方法を学んだだけです。APの課目はどれもやりがいがあり、自分を先に進めてくれました。アイオワ大学に入学したときには、すでに15単位を取得していました。」





# 大学への早期入学

優秀な高校生にとり、大学に進学することが最良の方法であることがよくあります。過激だと思われるかもしれませんが、これはこの国において建国当初から行なわれていることなのです。

事実、アメリカの歴史を通して、才能のある生徒は大学に早期入学しています。教室一つだけの学校に通った生徒が、18歳に達するまでにハーバードやエールに入学することがしばしばありました。

この慣行には長い歴史があるものの、大学への早期入学には依然として賛否両論があります。しかし、以前よりも普及が進んでいることが、研究により明らかになっています。

大学への早期入学は、これまでどおり生徒が高校のカリキュラムを修了した場合に考慮されますが、地元の高校の環境に生徒が退屈してしまったことが理由となることもあります。非常に優秀な生徒は、高校では得られない学問的な満足感を求めていることがあります。

そのような生徒は、やりがいのあるカリキュラムを何年も待ち望んでいることがあり、高校までには先に進む時期に達していることもあります。

## 天才だけのためのものではない

メディアは、大学早期入学者をまれに見る天才のように報道することがよくあります。しかし、早期入学者の年齢、能力、情緒面での成熟度、家庭環境等は実に様々です。早期入学者の多くは、他の大学1年生より1～2歳若いだけです。

「大学に10歳で入学したわずかな数の子供に注意が集中しすぎています」と、これまで何千人もの15～17歳の早期大学入学者の支援を行ったジョンズ・ホプキンス大学のジュリアン・スタンレー教授は語ります。

早期入学は、その生徒自身にとって必ずしも大きな変化ではありません。生徒の中には、特に1年飛び級をしたり科目で先に進んだりした生徒は、大学進学を目差す年長者と同じ教室で高校の最終学年を過ごした者もいます。このような生徒は、正規の年齢で大学に入学する1年生と同じ知識を身に付けて大学に入学します。

他の大学早期入学者の中には、すでに大学に通った経験のあるものもいます。大学の夏季講習の一環として家を離れて大学に通い、年上の大学生と共に授業を受けた経験があるのです。地元のコミュニティーカレッジのキャンパスで十分な時間を過ごし、他の新生よりも大学環境になじんでいることもしばしばあります。

一部の才能ある高校生にとり、夏季講習やコミュニティーカレッジでのクラスでの経験が、大学生活の序章として十分であるかもしれません。また、大学に抗しがたい魅力を感じる生徒もいます。このような生徒は、あちこちのコースを受講するのではなく、大学にフルタイムで入学したいと望みます。

しかし、早期入学者のすべてに、大学を前もって経験する機会があるわけではありません。自分に与えられた選択肢に不満であるために、もっと正確には選択肢がないために、大学に来ている者もいるのです。彼らには、夏季講習やコミュニティーカレッジでの何年もの経験を持つ早期入学者とは非常に異なるものが必要です。

## 早期入学者の選択肢

早期入学者が経験することは様々です。寮に入ることもあり、自宅から大学に通うこともあります。非常に競争の激しい大学を選ぶことも、誰でも受け入れる方針をもつ地元のコミュニティーカレッジを選ぶこともできます。



また、早期入学者用の特別プログラムのある大学に入学することもできます。このようなプログラムは、生徒に対する追加的なサポートになり、また同様の立場にある仲間に出会う機会にもなります。場合により、特別な寮や奨学金が用意されていることもあります。

ノース・テキサス大学のテキサス数学科学アカデミー(TAMS)には、毎年200名の10年生が入学します。TAMSは、高校の最後の2年の課目と大学の最初の2年の課目を同時に受講する生徒に高校卒業資格を授与します。

ワシントン大学は、高校から大学への移行を円滑に行うための特別な移行スクールを併設した早期入学プログラムを実施しており、長年にわたり成功を収めています。バード高校の大学早期入学プログラムも成功を収めているものの一つであり、ニューヨーク市住民に対して無料で提供されています。

メリー・ボールドウィン・カレッジは優れた生徒に対する早期入学プログラム(PEG)を、またウェスト・ジョージア州立大学はジョージア・アドバンスト・アカデミーを主催しています。

早期入学者は、自分の選択肢を良く検討する必要があります。友人たちのいる高校に通学しながら、同時に地元の大学に出席することができる場合もあります。事実、高校と大学を同時に終了し、両方の修了証書を一度に取得することも可能なのです。

夏季講習や飛び級のような選択肢がより一般的になると、大学に早期入学する生徒が増える可能性があります。このような生徒は、同級生たちよりも高校の課程を単に早く卒業するだけです。

今後、アメリカの高校がもっとやりがいのあるカリキュラムを提供するようになるかもしれません。アドバンスト・プレースメント(AP)プログラムが広まり、他の加速教育の選択肢(入学者厳選の州立高校等)が利用可能となれば、高校のカリキュラムがやりがいのあるものと感じる生徒が増えることでしょう。

早期入学プログラムは付属書類Fにリストされています。

## 社会的関心事

すべての早期入学者が高校から大学に問題なく移行すると期待することは、現実的ではありません。普通の年齢の学生であっても、学業や周囲との関係において困難を経験することがしばしばあり、

大学生活への適応に問題が生ずることがあります。

年少の学生は、注目度が他の学生よりも高くなります。年が若いために、同級生より1年か2年あとにならないと運転免許を取得できないなど、いくつかの困難がありますが、大学に早期入学した学生のほとんどは、そのことに満足しています。

ほとんどの研究は、早期入学が肯定的な結果を生んでいることを示していますが、すべての早期入学者がうまく適応できるというわけではありません。

今のところ、父兄に早期入学判断の正しさを納得させるような説得的な研究結果は示されていません。ジュリアン・スタンレー博士は、これを個人的事例と集団的事例の違いと説明します。

「大学に普通の年齢よりも早く入学した学生のなかには、適応が困難な者もいるという例があります。このような子供が年齢通りに大学に入学していたらどうなっていたかを確実に知る方法はありません」と、スタンレー博士は述べています。

「早期入学者に関する調査は、通常の入学者であれ大学の早期入学プログラム参加者であれ、その多くが社会適応や情緒面で問題なしに高い好成績を修めていることがはっきり示されています」と、スタンレー博士は述べています。

## 早いスタートをきる

大学に早く入れば学校在籍の合計年数が少なくなることは誰もが認めるでしょう。これは有利なことです。

「卒業後、自分の人生の方向性を考えるために余分に1年あることに興奮しています。大学を終えてから大学院にすぐに進学する必要はないと感じているので、1年間の休みを取ってからにしようと思っています」と、大学に早期入学したアイオワ州ハドソンのアレクシス・ハンソンは語ります。

医学のような専門課目には、大学修了後、専門分野の学習に8年以上の時間が必要です。加速教育で大学に早期入学した学生は、専門的職業に早く就くことができ、その余分な時間によって、家庭と仕事の義務のバランスを取りやすくなります。

早くにスタートすれば、自分の興味を探求する機会ができることにもなります。20歳で大学を修了した加速教育を受けた学生は、海外で働き、自分の専門以外のアルバイトをし、遊ぶ時間を持ち、そしてその後実社会に出ても全く不都合がありません。加速教育を受けた学生に



後年インタビューをすると、そのような経験で良かったことは通常の進路では得ることの出来ない余分な時間があったことと答える者もいます。

一般的には、早期入学者は高校での特別な時間を味わえないと見られていますが、現実には自分自身および専門知識の探求に充てる時間を得たのだとも言えるのです。それが最良の教育かもしれないと、かつての早期入学者が語ります。



## 大学早期入学者の話

イリノイ州シカゴで育ったジェームス・エデルは、入学した高校で初めて1年早く卒業して大学に進学した学生です。アイオワ大学の早期入学プログラムである全米文化理工技術アカデミー (National Academy of Arts, Sciences, and Engineering, NAASE) で英語と哲学を専攻しています。

### 高校を早く卒業することにしたのはなぜですか？

2年生で学習意欲がなくなりました。そのまま3年までいても、何もしなかったでしょう。成長が止まったことだろうと思います。学校は簡単で、クラスを選ぶことはできませんでした。高校を抜け出すいろいろな方法を探していました。

### NAASEをどうやって見つけたのですか？

不思議なことに、パンフレットが送られてきたのです。送られてきたのは、自分の高校では僕だけでした。

### 高校ではみんなの反応はどうでしたか？

カウンセラーにこのことを相談したのですが、彼女が最初に言ったのは「卒業できないことになるのはわかるわね」でした。自分の学校では大学に行くため早期卒業した者は誰もいませんでした。このようなプログラムの存在を誰も知らなかったからです。

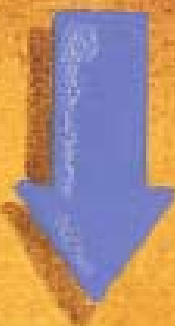
早期に高校を終えたことで道が開けたことは間違いありません。多くの友達は今でも早く卒業したかっただけと言いました。今では早期卒業した他の生徒が他にも何人かいます。

人に早期卒業のことを話すと、随分変な顔をされました。成長を急いだわけではありませんが、結果的にはそうになりました。

### 大学で年齢が問題になりましたか？

単に目新しがられたただけでした。人は関心を示しましたが、説明するのは難しいので、説明しようとはしませんでした。アイオワ大学に1年在籍後に高校を卒業したということに、多くの人は困惑します。

17歳を越えてからは、年齢はまったく問題になりませんでした。今では大学がとても気に入っています。



# 公共政策： 努力に報いるための法律

アメリカでは基礎学力に心を奪われています。あの子は読み書きができないんだよ、などというようなことがよく聞かれます。

政治家は、生徒たちのテスト結果が悪いことを根拠にして、平等性の必要を叫びます。近年行われている数多くの政策により、教師はテスト結果のみに焦点を当てることを強要されています。

テストには賛否両論がありますが、社会において効率的な役割を果たすことに必要な技能を身につけるための教育を子供に与えることには、反論はありません。当然のことであるからです。

平等性は、すべての生徒に勉学の機会が与えられているかどうか依存します。そしてアメリカの教師は、平等の理念と社会的公正の夢を心から信じています。事実、多くの教師は、教育を通して不利な子供たちに希望を与えたい、と願いながら教鞭を執っています。

この図式のどこに問題があるのでしょうか？

バンダービルト大学教育学部の学部長であるカミラ・ベンボウ博士は、「優秀な子供を含み、すべての生徒には毎日何か新しいことを学ぶ資格があります。優秀性を置き去りにして平等性を達成することはできません」と語ります。

すべての政治家が基礎学力について論じているなかで、人間の潜在能力の向上が忘れられています。



“否定された天才–Genius Denied”  
のウェブサイト

(<http://www.geniusdenied.com>)

によると、アメリカのK-12(幼稚園児から12年生まで)の児童生徒数は47,846,000人で、才能ある子供の数はその約5%である2,393,000人といわれています。





## 「加速教育において、

幸いなことに、変更すべきことは文書化された政策ではなく、政策当局の態度だけである」

ジェームス・ギャラガー

ノースカロライナ大学チャペル・ヒル校

英才教育の政策問題の専門家

## 法と考え方

適切な教育を求める障害を持つ生徒の権利は法律で保護されていますが、才能ある生徒に対する法的保護はほとんどありません。ほとんどの州では、やりがいのある課題を与えられず教室で何年もじっとしているだけ生徒に対する、適切な教育介入を義務付けた法律はありません。

法律や公共政策は、加速教育において取るに足らない役割しか果たしていません。加速教育の将来は、政策や法律を変える以前に考え方を変えることに左右されます。

弁護士であり、才能ある生徒の法律問題に関する多くの著作があるリーハイ大学のペリー・ジルケル氏は、「ブラウン対教育委員会」訴訟から50年たって今も、わが国ではまだ教室での平等性が達成されていないと語ります。ブラウン氏の活動は、肌の色によるグループ分けを法律で禁止することから始まりました。今日、加速教育に対する考え方を変えることは、誕生日によるグループ分けの廃止への道であることを意味します。

アメリカの学校が変化することは確かなことですが、すぐに変化が起こるわけではありません。

平等性というアメリカの理念を実現するためのすべての努力と同様、最初の闘争は考え方を変えることです。アメリカの聡明な子供たちに関する議論に加速教育を含める闘争は、考え方を変えることから始まり、政策を変更することが最終目標となります。

## 主流メディア

教育研究ジャーナルには加速教育の効果を論じた研究が数多く掲載されていますが、状況は一般のニュースメディアがこのことを大衆に伝えるまで進んでいません。

教育研究者は事実を知っていますが、自分の子供に飛び級させるべきかどうかを決めようとしている父兄は、このような研究についての知識がありません。

アメリカの社会運動の多くは、それを熱心に支持するジャーナリストの働きにより、注目を集めました。アメリカの優秀な生徒の未来についての希望は、メディアに依存しています。ジャーナリストがこの切実な問題を理解するために時間を割くことで、国全体が利益を得る可能性があります。

公共政策はメディアの影響を受けます。能力ある子供に関する問題についてメディアが正確に報道することは、一般大衆の認識を変え、アメリカの立法者の考え方を変えることに役立ちます。

## 世論を変える手段

加速教育について一般的に知られていることの中で欠けている大切なものは、情報と考え方です。ノースカロライナ大学チャペル・ヒル校のジェームス・ギャラガー教授は、公共政策を変えるために以下のような方策を提案しています。

- ・ 加速教育を受けたことのある大人へのインタビューの公表
- ・ 早期入学に関する法案モデルの作成
- ・ 優秀な子供の利益保護のための立法者との連携

父兄、教育者、および関心ある市民は、才能ある子供に対して社会が関心を向けるように、地元メディアや政治家に対して働きかけることができます。

## 将来への希望

本当の希望は、一般市民の手に委ねられています。父兄、教師、および校長が加速教育に関する事実を理解すれば、彼らは才能ある生徒の擁護のために政治家に対して影響を与えることができます。

わが国の生存はアメリカ人全体の基礎学力に依存していることは間違いありませんが、わが国の進歩は優秀な子供たちにどう対処するかにかかっています。

関心ある市民は行動を起こさなければなりません。わが国には、生徒を退屈させたり長年不適切なカリキュラムの中に放置しておく余裕はありません。私たち自身および指導者を教育し、教育政策を変えねばなりません。

\*NAASEは、アイオワ大学の早期大学入学プログラムである全米文化理科学術アカデミー（National Academy of Arts, Sciences, and Engineering, NAASE）のことです。

## 大学早期入学

小学校4年生の時、キャサリン・ハーシュは才能発掘プログラムに参加しました。これにより、彼女に情報が送られてくるようになりました。その一つはアイオワ大学のNAASEプログラムからのものでした。その4年生のテストに参加した結果、ハーシュは大学に早期入学することになったのです。彼女の高校では初めてのことでした。

### 1年早く終えた生徒はあなたの高校では他にいましたか？

私の知る限り、これまでに丸1年の飛び級をした人はいませんでした。

### 自分の選択に満足していますか？

もちろんです。全体的に見て、これまでとても良い経験をしています。高校で最終学年を過ごしたとしても、大学の1年目で得たほどのものは得られなかったことでしょう。

NAASE\*はこれまでにない機会だと感じたので、高校を離れることにしました。以前から大学に行きたいと思っていたのです。中学校のとき、高校にはあまり興味がないけど、大学には本当に行きたいって考えていたことを覚えています。大学に行くことは、ずっと前からの私の夢でした。

### 何かを失ったと思いますか？

いいえ、失ったものは何もありません。同窓会や卒業式のような大きな行事には帰ってくる事が出来たし、毎日の勉強が恋しいと思ったことはありませんでした。

### 1年早く入学することで心配なことはありましたか？

皆はすぐに気がつくと思っていましたが、最初の数ヶ月が過ぎると年齢は問題になりませんでした。自分で言わなければ、誰も気がつきませんでした。

ただ、まだ17歳だったとき、問題になったことがありました。年齢のために、遊びに行ける場所が限られていました。また選挙のあった年の政治学のクラスで、誰に投票するかについて議論がありました。私は17歳だったので投票できませんでした。問題になったのはそのときだけです。







# お金の話： 加速教育の財政的側面

年を追うごとに新聞の見出しは激しくなっています。大学授業料は毎年インフレ率を上回って増加します。賃金上昇率の2倍、3倍、4倍のスピードであることもしばしばです。

カレッジボードによると、2003～4年の私立大学の年間費用は平均19,710ドルであり、前年度の6%増でした。公立の場合、年間費用は平均4,694ドルであり、14.1%の増加でした。これは、標準的な賃金増加率である3～4%よりもずっと高くなっています。

授業料が上がれば、大学に進学する低所得層家庭の学生数が減少します。中産階級の学生は高額の学資ローンに苦しみ、父兄は教育費負担のためにしばしば二つめのローンを組むことを余儀なくされます。

この費用を12～25%削減する方法があるとしたらどうでしょう。

1学期早く卒業する学生は学費の8分の1を節約することができ、1年早ければ4分の1の節約になります。同様に、アドバンスト・プレースメントの単位を取得して大学での単位取得数を減らすことで、大学の授業料を減らすことができ、同時に厳しいが有益な課目を学ぶことができます。

大学を短期間で修了することは、すべての生徒のための解決策ではありません。しかし、進歩が早く高度の学業が可能な学生にとって、加速教育プログラムには学業面でのメリットとともに経済面でのメリットもあります。

## 学区にかかる費用

飛び級は経済的です。つまり、机を1つ用意すること、あるいは2年生から3年生に机を動かすことが必要となるだけです。新しい教師を雇用したりする必要はありません。

納税者に対するコストの問題もあります。子供が学校を早くに修了すれば、納税者への負担が減少します。

「加速教育において大事なことは、その考え方です」と、アイオワ大学のニコラス・コランジェロ博士は話します。

教師は、加速教育を受ける生徒に対する考え方を変えるために時間がかかるかもしれません。また校長は、現在の研究結果を学ばなければならないかもしれません。しかし、出資する側にとっては、大きな節約となります。

## 父兄の負担

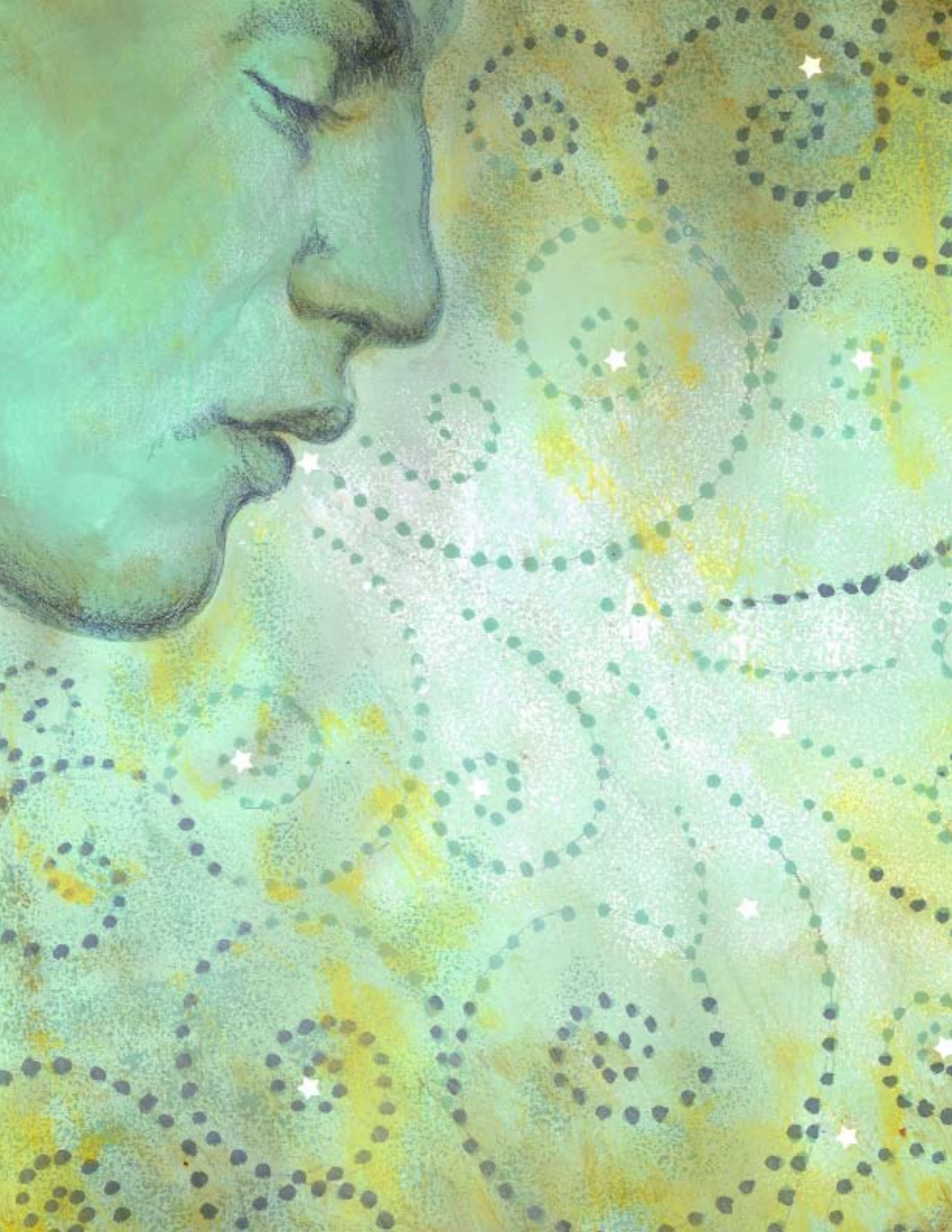
親にとって加速教育は経済的です。家庭教師、特別なキャンプ、その他の補習プログラムを探したり、ときにはその費用を負担したりする必要がなくなります。単に子供を適切なクラスに移すだけで、最善の解決策となるばかりではなく、経済的にも効果的な解決策となります。

親は、退屈し物事に関心をなくした子供にかかる費用を払わずに済むことにもなります。慢性的に退屈してしまった子供を元に戻すために時間と費用を費やす代わりに、新しいクラスに移すことで将来の問題を回避できることがあります。

## 優先順位の確認

大学教育年数削減による費用節減を計算するのもいいのですが、教育の判断には決して金銭が優先されてはなりません。子供を幸せを最優先に考えるべきです。加速教育により、子供は学業面と社会面で一歩先んじ、学区と父兄は財政面で利益を得るのです。





# 加速教育に対する意見

## ある学生の意見

当事者にとって加速教育の現実はどのようなものでしょうか？アイオワ州ハドソンの小さな町で育ったアレクシス・ハンソンは、彼女の経験を語ります。現在、彼女はアイオワ大学の医学部に進学予定の教養学部学生です。

### 加速教育の経験を話してください。

私は6年生で飛び級をし、3年生から8年生まで数学の加速教育も受けました。APで微積分も取りました。私の学区は小さかったので、利用できるものはそれだけでした。大学には1年早く入りました。これらすべてに参加することができて、とても運が良かったと思います。

### 加速教育は大変でしたか？

7年生に飛び級をしたとき、教科の面での問題はまったくありませんでした。大学へ進学したときの方がずっと大変でした。勉強の仕方が、まだよく分かっていませんでした。

これは多分、加速教育の機会がなくて何年も退屈している学生にとっての大きな問題でしょう。感情面や心理面においては、これまであまり問題はありませんでした。

### 加速教育の経験を楽にしてくれたことは何かありますか？

7年生のときに、5年生以来の本当に仲のいい友達と一緒に飛び級になったので、とても助かりまし

\*NAASEは、アイオワ大学の早期大学入学プログラムである全米文化理科学術アカデミー (National Academy of Arts, Sciences, and Engineering, NAASE) のことです。

た。一緒に遊んだり、友達を作ったり、助け合ったりしました。

このNAASE\*のプログラムには、私を入れて12人がいます。私たちは名誉寮と一緒に住んでいるので、経験を共有することができます。

ベリン-ブランク・センターの大学院生が2週間に1度私たちとミーティングをしてくれたことも、とても助かりました。

他の学生は、私たちの階にいる年下の学生のことを笑うのですが、ひとたび知り合えば私たちのことを仲間に入れてくれました。私の友達の大半は年上です。

### では一番大変だったことは？

大変なことはいくつかありました。ほとんどの友達は運転免許を私よりずっと先に取ったので、いつも私は乗せてもらってばかりでした。今は初対面の人に自分の年齢について口にしないようにしています。年齢のために見下されるようなことがあるからです。それは、年齢が若くてもものごとをちゃんとやる子供もいるということが教えられていないからだと思います。

卒業後、自分の人生の方向性を考えるために余分に1年あることに興奮しています。大学を終えてから大学院にすぐに進学する必要はないと感じているので、1年間の休みを取ってからにしようと思っています。

### 加速教育全体についてどう考えていますか？

私にとり、とてもいい経験でした。この情報を各地域に広め、他の生徒にもこの経験ができるように全米や世界に普及させることがとても重要だと思います。





## 同年齢グループは重要か

「大学への早期入学は、同年齢グループと一緒にでも一人だけでも、一般的に非常にうまくいきます。しかし、グループで早期入学することには大きな利点があります。聡明な若い他の仲間と一緒に同じことを同時に体験するということは、いろいろな面で励みになります。」

アイオワ大学、ニコラス・コランジェロ博士

## 教育部長の意見

レイン・ブラッジ博士は、学業、芸術、およびスポーツで高い成績を納めているアイオワ市の学区教育部長です。

ブラッジ博士は「私は、K-12(幼稚園児から12年生)を預かる教育部長という立場から、このレポートのタイトルには少し緊張させられます。ほとんどのK-12を管轄する学区で何らかの加速教育が行われていると思いますが、加速教育がその価値に相応しい理解がなされていないことに同意します」と述べています。

博士は、学校が加速教育に躊躇する理由を、次のように説明しました。「慎重になるのは、子供にプレッシャーをかけたくないからです。加速教育は、取り組まれなければならない問題であることは確かです。」

ブラッジ博士は、加速教育は同学区において非常に稀であると言います。

「当学区に在籍する10,500人の生徒のうち、加速教育について相談を持ちかける父兄は年間5組ほどだけです。」

親が話しを持ち出さなければ、誰もこの話しをすることはありません。「学校の教職員は、この話しをすることには消極的です。相談を持ちかけた5人のうち、実際に飛び級になるのは2人か3人です。」

ブラッジ博士は、加速教育に関する教育者の知識を高め考え方を変えていくものとして、このレポートを歓迎しています。「子供について以前より理解できるようになったと思います。」

教師が加速教育の長所になぜ気がつかないのかということに疑問を持つ教育研究者に対して、ブラッジ教育部長は次のように助言をしています。

「K-12(幼稚園児から12年生)の関係者が加速教育について知っていると思ひ込んではいけません。彼らはこのことを知らないのです。レポートを提出することで問題がすべて解決すると思っはいいけません。始まったばかりなのです。」

## 教育委員会の意見

アイオワ市の学区教育委員長であるローレン・リース氏は、子供のときに加速教育を受けており、その肯定的な経験に基づいて、加速教育を推進しています。

「教育政策の策定において教育委員会はとても大きな役割を果たすことができます。教育委員会の主たる仕事は、学区の方向を決めることです」とリース氏は語ります。

多くの学区は、バイリンガルの生徒、移民の生徒、貧しい生徒、そして様々な障害のある生徒に対処する必要があり、現在このような点に主に焦点が当てられています。

リース氏は、「多くの生徒は、より高い水準の教育を求めています。このような子供たちは大きなリスクに曝されています。これは、「どの子ども取り残さない(No Child Left Behind)」という法律[2002年成立の連邦法]ではっきりと確認されています。その他の問題はかき消されています」と語ります。

リース氏は、本レポート「欺かれた国家」の可能性に期待しています。「このレポートは、教育の方向を変える大きな役割を担う可能性があります。公立学校の教育で見直されなければならないことは、政治的に正しくないかもしれませんが、能力に大きな差がある子供たちが一まとめにされたクラス編成です。現在の状況では、早く先に進むべき聡明な子供たちを見出すことはできません。」

高い能力を持つ生徒は、その能力が確認されたとしても、あまり関心を払われることがありません。「様々な能力の子供がいる教室では、教師が優秀な子供に焦点を当てることはできません。それは、もっと面倒を見てやらなければならない他の子供たちがいるからです」と、リース氏は説明します。

教育の専門家は、一般の人、特に父兄と教師が加速教育に関する研究結果について良く知らないことに懸念を示しています。このことに関し、教育委員長のリース氏はある明確な意見を持っています。

リース氏は、「研究結果を公表し、地域で父兄の懸念が表明されるべきです。父兄は、『自分の子供は優れているのに、学区は十分なことをしていない』と主張することに躊躇しているのです」と語ります。

リース氏は、教育委員会の存在を忘れてはいけなと語ります。「教育委員会のメンバーに、能力ある子供に対する加速教育への支援を取り付けるのです。そのような後押しなしでは、議論をその方向に持っていくことは非常に大変でしょう。」

## 加速教育は能力別学級編成か

違います。1960年代に実施された能力別学級編成は、児童生徒を能力別に厳格に区分します。これは、非常に議論を呼んだ教育実践方法でした。現在の能力別学級編成方法は、それよりもずっと柔軟です。能力別学級編成や能力別のグループ化と比較すると、加速教育は非常に個別で柔軟なアプローチであり、年齢ではなく能力を基にして生徒の学習ニーズに対処します。

能力別学級編成はグループの相違に焦点を絞るもので、加速教育は個人差に焦点を絞るものです。





# 教師による支援

教師は、能力のある子供をいくつかの方法で効率的に支援することができます。まず、子供が勉学の上で進んでいることを認識します。次に、子供を新しい課題を与え、学校を建設的な経験の場にします。最後に、子供が加速教育を受けるための準備ができているかどうかを判断します。

能力のある子供は自分で学習することができ、図書館に行って自分で学べると、一般的に思われているかもしれませんが、実際には、学業の優れた生徒には資格と知識を持つ教師が必要であるというのが、専門家の意見です。

「学級担任の教師は、能力のある子供にとって大切です」と、バンダービルト大学教育学部の学部長で英才児の権威であるカミラ・ベンボウ博士は述べています。

「優れた教師は、他の機会の扉を開くことができます」とベンボウ博士は話します。

## 教師が知るべきこと

十分な知識があり協力を惜しまない親がいたとしても、教師は才能ある子供の一生にとり極めて重要な役割を果たします。

「親は子供を擁護することでは誰にも劣りませんが、変革を実行するためには担任の教師や管理者と協力する必要があります」と、アイオワ大学ベリン-ブランク・センターの副学長であるスーザン・アスーリン博士は話します。

才能ある子供たちにとって、彼らのニーズが教師の優先事項にはなっていないということが現実です。教師は他の多くのことに時間をとられるようになり、彼らのニーズは後回しにされるのです。

現在、わが国の関心は「どの子も取り残さない(No Child Left Behind)」として知られる立法に集中しています。すべての子供が最低限の学力をつけることに重点が置かれ、標準以上の能力を持つ子供たちの才能を最大限に伸ばすことは優先事項と見なされません。しかし、能力ある生徒に適切に対処すること



## 教師にできること

- ・ 才能ある子供を識別する
- ・ 新しい課題を与える
- ・ 子供の父兄に加速教育について知らせる
- ・ 生徒が既に知っていることを教えるのは最低限にする
- ・ 優秀な生徒を含み、すべての生徒にとり学校が建設的な経験の場とする

は、他の生徒をなおざりにすることにはなりません。

教師は、加速教育に関する研究結果および加速教育には18種類あることを知る必要があります。ある子供が加速教育を受ける準備ができているかどうかを判断するとき、「アイオワ加速教育基準」のような測定方法があることを知るべきです。

興味深いことに、単純で頑固なこと、つまり考え方が、経験豊かな教師の一番の問題となる可能性があります。何年も加速教育についての否定的な見方を聞いてきた教師の多くは、加速教育に対する考え方を再検討する必要があります。教育の専門家として、常の自己啓発を行う必要があるのです。

学級担任教師の全員は、加速教育を受けた生徒の圧倒的多数がそれぞれの教育上の経験に満足しており、また社会的にもよく適応している、という事実を知るべきです。学級担任の教師は、「欺かれた国家」の第1巻第II巻を活用して、優秀な生徒を支援することができるのです。

子供の教育は、加速教育に関する真実が知られていないという理由で浪費するには、あまりに重要すぎるのです。

## 教育大学:無言の問題

多くの教育者が議論を避ける話題は、加速教育に対する現在の考え方が何に根付いているかということです。

ひとつだけはっきりしていることは、アメリカの教師と管理者には共通事項があるということ、つまり教育の学位です。教育大学は、教育過程における中高校のパートナーです。問題は、才能のある子供に関して教育大学が無言のパートナーであることです。

バンダービルト大学教育学部の学部長であるカミラ・ベンボウ博士は、「これは文化的な問題です。教育大学は、社会的公正と平等性を心配しているのです」と説明しています。

「教授陣は、教育の平等性について深く懸念しています。もちろん、これは大切なことです。しかし、私たちは、決定的に大事なもの、つまり優秀性に対する信頼をなくしてしまったのです。優秀性を無視した社会的公正は空虚なものです。」

教育大学の課目一覧をざっと見れば、英才教育に関する課目(必修または選択)はほとんどありません。受講できる課目のほとんどは現職者を対象としており、学位を取得した教師や管理者しか受講できないように見えます。教師が才能ある生徒を教室で発見し支援することに役立つ課目が、学士号を取得する要件であることはまずないのです。

優秀な生徒への対処は必修カリキュラムの一部ではないので、多くの教師は高い能力を持つ生徒に対する適切な判断を行う準備ができていないまま大学を卒業するのです。

教師や管理者は、特別な学習が必要な生徒に関する課目の受講が多くの場合必要ですが、これらの特別学習の課目には才能ある生徒は含まれておらず、含まれていたとしても付け足し程度にしか過ぎないのです。

英才教育と優秀性の問題について注意が払われていないことは、教育大学がこれほどまでに加速教育に無関心である理由の1つです。不思議なことに、加速教育に関する数々の研究結果が何年にもわたり入手可能であるにもかかわらず、このような基本的なカリキュラム上の介入が教育者養成の一環として教えられていないのです。

「教育大学は、教育の様々な側面の研究を批判的に評価し普及させなければなりません」と、アイオワ大学教育学部学部長であるサンドラ・ダミコ博士は主張します。「教育大学は、すべての生徒に最善の教育法を実行するための情報と技能を将来の教育者に提供する義務があります。」

「加速教育に関する研究が教師や管理者養成の必修科目になっていないという事実は、教育大学の本来の使命に反することです」と、学部長のダミコ博士は断言します。

## 教師を批判してはならない

教育指導者の中には、他の問題同様、英才教育に関する問題のすべてについて、学級担任の教師が責任を負わされるのではないかと懸念する人がいます。

才能ある生徒の特徴やニーズ、また加速教育の詳細を教師が知らないと非難することは、公平ではありません。教師や校長を養成する責任は、大学にあります。社会は、これらの機関が最も適切な情報と実践方法を提供することを期待しているのです。では、なぜ情報と実践との間にギャップがあるのでしょうか。

教育手段に関する研究の基礎は、教育大学から発せられます。その研究は、考え方や実践方法に反映されなければなりません。教育大学の教授たちは、研究結果が教育実践の根拠として重要であると教えます。しかし、加速教育にはこの教えが反映されていません。加速教育の実践の根拠には、加速教育に関する研究結果が活用されていないのです。

バンダービルト大学教育学部の学部長であるカミラ・ベンボウ博士は、「必要なのは単なる情報ではなく、適切な専門性の開発です」と語ります。「行動様式を変えるのは極めて困難です。教師がその態度を変え実践方法を変えると共に、私たちがその支援をしなければならないのです。」

ベンボウ博士は、わが国の教師に加速教育を肯定する詳しい研究結果に関する理解を促すことは困難かもしれませんが、これは行われなければならないことだと確信しています。

「簡単ではありません。このような教師の見方を、週末あるいは1週間の専門開発セミナーで変えられるとほど簡単なことではないのです。とはいえ、簡単ではないからといって、投げ出してしまっわけにはいかないのです。」

「教育に関する1日ワークショップは多く存在します。しかし、これは1日で解決できる問題ではありません。」

## 教師への支援

「だからこそ、勉強のできる生徒に関わる教育者のための教育訓練センターが国の将来にとって非常に重要である理由なのです」と、アイオワ大学教育学部学部長のサンドラ・ダミコ博士は語ります。

「コネチカット大学の全米優秀学生研究センターや、アイオワ大学のベリン-ブランク・センターのような機関は、専門能力開発のモデルであり、同時に学業の進んでいる子供に関する最新の研究結果の情報交換所にもなっています。このような機関は、才能ある生徒に対する適切な課題の提供方法を模索する教師をサポートしています。」

「非常に能力のある生徒に対する特別な課題や、そのような生徒の助けとなる様々な加速教育について多くの教師が知るにつれ、才能豊かな生徒のための機関が教師の適切な選択の助けとなるでしょう。」と学部長のダミコ博士は語ります。

学部長であるダミコ博士とベンボウ博士は、もう1つの点も指摘しています。世界最高の英才教育センターは、それぞれの教師の関与なしには、多くの生徒には助けにならないという点です。才能ある子供を見出して適切な教育の選択を助言することは、担任教師にとって常に大きな課題です。

子供の一生にとり、教師は大きく影響を与えます。才能豊かな子供の場合、教師が適切でやりがいのある課目を与えることで、その子供にまったく新しい教育進路への扉が開かれるのです。



本レポートをお読みいただき  
有難うございました。

私たちは、様々な形の加速教育実践に  
関する問題を提示しようと試みました。

私たちは、生徒のために最善の決定を  
しようとしている教育者への敬意を改めて  
表明したいと思います。本レポート第I巻と  
第II巻は、加速教育に関する非常に多くの  
情報を教育者と父兄に提供します。

私たちは、この情報が聡明な生徒たちの  
教育プログラムに関する議論および決定に  
際して有益なガイドとなることを  
願っています。

私たちは、この出版がわが国の進歩に欠か  
せないものとなることを信じています。  
人々が力を合わせることで、子供すべてに  
最高の機会を与えられるように  
なるはずです。

私たちは、アメリカの教育者が才能ある  
生徒の成長を妨げない選択することを  
願っています。

## 『欺かれた国家：学校がアメリカの優秀な生徒をいかに妨げているか』

## 要約

アメリカの学校は、非常に能力の高い生徒の援助に対する最も簡単で効果的な方法である加速教育を避けてきた。一般的には、飛び級をした子供は社会性を失うと思われるが、50年にわたる研究において、聡明な生徒を先に進ませることは彼らの幸福につながる事が明らかになっている。

加速教育とは、通常のカリキュラムを通常よりも早く進ませることである。加速教育には、飛び級、早期入学、アドバンスト・プレースメント (AP) コースなどの18種類がある。加速教育は、適切な教育計画であり、カリキュラムの水準および複雑度を生徒の受入態勢とやる気に適合させるものである。

先に進んでいる生徒は意欲的であることが多く、他の生徒よりも大学を修了する確率が高い。その後のインタビューでは、加速教育を受けた生徒の圧倒的多数が、加速教育が非常に良い経験であったと述べている。

加速教育を受けた生徒は、学業面でやりがいを感じ、社会的にも受け入れられたと感じる。また、同年齢の生徒と同じカリキュラムに従うことを強いられた高い能力を持つ生徒の多くが陥る退屈も経験しないで済む。

この説得力に富んだ調査は、その結果を父兄、教師、校長に提供しようという大胆な新方針に基づいて、初めて一般入手が可能となった。本レポートは、学校、メディア、父兄に無料で提供される。

このレポートには、早期入学、小学校での飛び級、アドバンスト・プレースメントのプログラム、および大学の先行受講に関する情報が収められている。加速教育を受けた生徒、教育学部の学部長、学校監督官、教育委員会メンバーの意見も収められている。本巻の文章は、すべてアメリカ有数の教育専門家の研究から抜粋したものである。調査の詳細は、本レポート第II巻を参照されたい。

これだけの研究による証拠がありながら、学校、父兄、教師はなぜ加速教育の考え方を受け入れないのか。『欺かれた国家』は、なぜ学校がアメリカで最も聡明な子供たちを阻害しているのか、その理由を

明らかにする。

- ・ 加速教育に関する研究があまり知られていない
- ・ 子供たちは同年齢グループに留まらなければならないという哲学
- ・ 加速教育により子供たちは少年期を十分に過ごせないとの考え方
- ・ 加速教育は子供たちの社会性に悪影響を与えるという恐れ
- ・ 平等性に対する政治的配慮
- ・ 一人の子供だけが加速教育を受けることに対して他の生徒が反発するとの心配

本レポートは、このような理由にはまったく研究の裏付けがないことを明らかにする。すでに数千部が配布され普及活動が行われているこの『欺かれた国家』のレポートは、教師と父兄に加速教育を考慮するための知識、支援、そして自信を与えるものである。

オンライン版および印刷版の本レポートの費用は、ジョン・テンプルトン財団により賄われた。この『欺かれた国家』がアメリカの聡明な子供たちの教育に関する議論を変えていくことを期待している。広く国中での議論を進めるため [www.nationdeceived.org](http://www.nationdeceived.org) のウェブサイトが用意されている。

なぜ加速教育がアメリカの子供たちにとりそれほど重要なのかをもっと知っていただきたい。詳しい情報と本レポートのダウンロードは [www.nationdeceived.org](http://www.nationdeceived.org) へお進みいただきたい。この対話型のウェブサイトは、本レポートへのご意見の投稿が可能である。

アイオワ大学教育学部  
コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク  
国際優秀学生教育・能力開発センター  
600 ブランク・オーナー・センター  
アイオワ市、アイオワ州52242-0454  
800.336.6463  
<http://www.education.uiowa.edu/belinblank>



## 『欺かれた国家：学校がアメリカの優秀な生徒を いかに妨げているか』の著者紹介



### ニコラス・コランジェロ

アイオワ大学マイロン・アンド・ジャクリーヌ・ブランク優秀学生教育学部教授。コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク国際優秀学生教育および能力開発センター所長。パーモント大学教育学修士(カウンセリング)、ウイスコンシン・マディソン大学博士(カウンセラ

ー)。才能ある生徒のカウンセリングおよび才能ある学生の情緒開発に関する著作多数。編書：『才能ある学生のカウンセリングにおける新しい声』(ロナルド・ザフランとの共編)、および『優秀学生教育ハンドブック』第1版、2版、3版)ゲリー・デービスとの共編)。「カウンセリングおよび開発」「季刊・優秀学生」「クリエイティブ・ビヘイビアー・ジャーナル」「優秀学生教育ジャーナル」「ローパー・レビュー」など主要ジャーナルの編集委員を歴任。国内国外の会議への研究論文提出および様々な場での基調講演多数。1991年全米優秀学生協会より特別研究賞受賞。1995年ウイスコンシン・マディソン大学教育学部より高い業績のある卒業生として表彰を受ける。2000年アイオワ教育アカデミー会員、アイオワ州立大学優秀学部リージェント表彰。2002年全米優秀学生協会会長賞受賞。2004年～2005年アイオワ教育アカデミー会長。



### スーザン・G・アスーリン

ベリン-ブランク・センター副学長。アイオワ大学学士(一般科学、教員免許付)、同修士(学校心理学)、同博士(心理学および計量基礎)。博士課程修了後2年間ジョンズ・ホプキンス大学で数学的才能を有する青少年研究所の特別研究員を勤める。任期終了後1990年よりベ

リン-ブランク・センターに移る。学習能力の高い小学生の発掘を専門とする。共著『数学的能力開発：能力のある優秀生徒のガイド』(アン・ルブコウスキー-ショプリクと)、共編『才能開発：優秀生徒と才能開発荷関するウォレス研究シンポジウムの成果』

(ニコラス・コランジェロと)。教育者および父兄による生徒の飛び級判断用ツール「アイオワ加速教育基準」第2版を共同開発。加速教育判断プロセスの専門家として100件を超える加速教育事例の相談を受ける。加速教育、開発、英才児・障害児に関する父兄および教師向けワークショップを多数実施。国内国際会議での発表多数。現在ベリン-ブランク・センターによる二倍の才能を有する子供たちに関する全米調査の主任研究者。





### ミラカ・U・M・グロス

オーストラリア、シドニー、ニューサウスウェールズ大学優秀学生教育教授ならびに優秀学生教育研究資料情報センター(GERRIC)所長。英才児教育に関する世界的権威であり、米国でも良く知られている。米国では、多くの教育省や学区に対して加速教育、コース作り、

カリキュラム開発に関する問題についての助言をし20年以上優秀な生徒の教育に貢献し続けている。学業に秀でた生徒の加速教育の専門家として指導的な地位にある。パーデュー大学で英才教育の修士号と博士号を取得。その後数年間に国際的な研究表彰を受ける。1987年英才教育研究でホリングワース最優秀賞をアメリカ人以外で最初に受賞。1988年と1990年にメンサ国際教育研究財団の最優秀賞を受賞。1995年特に功績あるものに与えられる全米優秀学生協会の早期学術賞を受賞。アメリカの教育に関する会議で多くの基調講演や招待講演を行っている。2003年オーストラリアの教育に対する貢献によりサー・ハロルド・ウィンダム・メダルを受賞。

### 『欺かれた国家』文章校閲

#### アヴィヤ・クシュナー

フリーランス・ジャーナリスト。現在アイオワ大学でノンフィクション・ライティングの修士課程(ファインアート)に在籍。ボストン大学修士(作詩)、ジョンズ・ホプキンス大学学士(美術史、クリエイティブ・ライティング)。エルサレム・ポスト、ハーバード・レビュー、パルティザン・レビュー、プレーリー・スクーターに定期寄稿。彼女の記事は、ユタ・リーダーおよび高等教育クロニクルに掲載されナショナル・パブリック・ラジオで論評されている。Bankrate.comに寄稿している金融記事は広く出版され、MoneyCentral.MSN.comでは最もリクエストの多い記事にランクされている。数年間BarnesandNoble.comのコントリビューティング・エディター・イン・ポエトリーを務めるほか、米国内外の各種出版物にビジネスおよびアートについて寄稿。

# コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク 国際優秀学生教育・能力開発センター

我々のビジョンは、  
学生、教育者、  
および家庭からなる  
世界の優秀学生コミュニティー  
を模範的なリーダーシップ  
により啓発し、それに  
奉仕することである。

ベリン・ブランク・センターの目標：

- ・ 能力ある生徒の発掘
- ・ 生徒への特別な機会の提供
- ・ 英才教育に対する総合的研究の実施
- ・ 教育者の専門能力開発の支援
- ・ 会議および出版による情報の普及
- ・ 能力ある生徒とそ家庭の評価とカウンセリング
- ・ 技術を通じた教育機会の拡大
- ・ 地域、国、国際レベルでの政策形成の先導
- ・ 才能開発における平等性とアクセスの普及
- ・ 学者および専門家へのコンサルティング
- ・ 子供と家庭の擁護
- ・ 能力ある生徒に関するプログラムの評価

[http://www.education.uiowa.edu/  
belinblank](http://www.education.uiowa.edu/belinblank)

## 優秀学生教育研究資料情報センター

当センターの目的は以下の通りである。

- ・ 英才児の効果的教育に関する研究の推進および実施
- ・ 能力ある生徒の教育・社会・情緒的ニーズに対処する教育者のためのプログラム開発と実施
- ・ 能力ある生徒の教師・カウンセラー・父兄に対するワークショップと特別セミナーの企画と実行
- ・ ニューサウスウェールズ大学の才能ある生徒向けプログラムの実施、および能力ある生徒向けの追加補足的プログラムの企画および実行
- ・ 教育者による能力ある生徒のニーズの発見と対応支援のための、能力開発用各種専門材料の出版

<http://gerric.arts.unsw.edu.au/>

能力ある生徒に関する  
研究を行い、能力ある  
青少年とその家族および  
学校にサービスを提供する  
ことにより、能力ある青少年  
の教育・社会・情緒的ニーズ  
に対処する。



## ジョン・テンプレトン財団

ジョン・テンプレトン財団の  
使命は、厳密であると同時に  
偏見がなく経験に焦点を当  
てた方法を以て様々な経験  
分野の才能を糾合し、  
神学と科学の境界に新たな  
洞察を加えることである。

財団は、「謙虚なアプローチ」を以て、宇宙論からヘルスケアまで様々な学問領域にわたる、精神的にも理論的にも意味を持つ話題の分野についての、科学的探究手段と資源に焦点を絞ることを常としている。人間科学の分野において財団は、人格教育および一生にわたる積極的価値と目的の探求を推進するプログラム、競争、出版、研究の支援をしている。財団は、テンプレトン自由賞、新しいカリキュラムの提供、その他市場自由の原則を促進するプログラムを通じて、国際的規模での、自由な教育の試みと能力開発を支援している。

<http://www.templeton.org>

## 父兄と教育者のための資料

インターネットの時代になり、父兄や教育者が入手できる資料は非常に多くなりました。今日では、才能ある生徒、その教師、父兄のための情報、プログラム、サービスにアクセスできる数百のメーリングリストやウェブサイトがあります。

この添付書類の第1部には、才能発掘センターを含む英才教育センターのリストが記載されています。センターの多くは、生徒用プログラムおよび/または専門家の能力開発機会のスポンサーになっています。

以下のリストはすべてを網羅したものではありません。役に立つ代表例を提供することを目的としています。

### 英才教育と才能発掘のセンター

#### アカデミック・タレントサーチ

才能発掘と6年生から9年生の生徒向け夏季講習や週末プログラム。

カリフォルニア州サクラメント、カリフォルニア州立大学  
<http://edweb.csus.edu/projects/ATS>

#### ベリン・ブランク国際優秀学生教育・能力開発センター

才能発掘[ベリン・ブランク優秀生徒才能発掘-BESTS]、2年生～9年生。通学および滞在プログラム、3年生～12年生。

アイオワ州アイオワ市、アイオワ大学  
<http://www.education.uiowa.edu/belinblank>

#### 優秀小学生のためのカーネギー・メロン研究所 (C-MITES)

才能発掘、3年生～6年生。ペンシルバニア州全域からの通学プログラム、幼稚園児～7年生。

ペンシルバニア州ピッツバーグ市、  
 カーネギー・メロン大学  
<http://www.cmu.edu/cmities>

#### 優秀学生教育センター

英才教育に関する大学レベルの教育。高い能力の学習者向けカリキュラム開発と普及。

バージニア州ウィリアムズバーグ、ウィリアム・アンド・メアリー・カレッジ

<http://www.cfge.wm.edu>

#### 優秀学生教育センター

カナダ、アルバータ州カルガリー、カルガリー大学

<http://www.ucalgary.ca/~gifteduc/>

#### アーカンソー大学優秀学生教育センター

リトルロックにあるアーカンソー大学の優秀学生教育センターは、能力のある生徒とその家庭、教師、管理者向けプログラムとサービスを提供。

<http://www.ualr.edu/giftedctr/>

#### 英才児研究センター

大きな英才教育センター。子供、父兄、教師にサービスを提供。

ケンタッキー州ボウリンググリーン、ウェスタンケンタッキー大学

<http://www.wku.edu/gifted>

#### 才能開発センター

4年生から9年生の能力発掘。幼稚園児から12年生までの通いまたは宿泊による夏季講習および週末プログラム。

イリノイ州エバンストン、ノースウェスタン大学  
<http://www.ctd.nwu.edu>

#### タレンテッド・ユース・センター (CTY)

小中学生対象の通いまたは宿泊プログラム。様々な年齢の生徒への通信コース。

メリーランド州ボルティモア、ジョンズ・ホプキンス大学  
<http://www.cty.jhu.edu>

### デビッドソン才能開発研究所

高い知能の年少者の認識、養育、支援。ネバダ州レノ。  
<http://www.ditd.org>

### フランシス・A・カーズ優秀学生研究センター

7年生～10年生  
ミシシッピ州ハティスバーグ、南ミシシッピ大学  
<http://www-dept.usm.edu/~gifted>

### 優秀学生開発センター

コロラド州デンバー  
<http://www.gifteddevelopment.com>

### 優秀学生教育研究資料情報センター

オーストラリア、ニューサウスウェールズ州シドニー、  
ニューサウスウェールズ大学  
<http://gerric.arts.unsw.edu.au/>

### ハンブシャー・カレッジ数学サマースタディ

数学に優れたやる気のある高校生向けプログラム。  
マサチューセッツ州アムハースト、ハンブシャー・カレッジ  
<http://www.hcssim.org>

### ホリングワース英才児センター

ホリングワース・センターは高い能力を持つ子供たちの  
ニーズに絞った支援をし、資料を揃えた全国ネットワー  
ク。  
<http://www.hollingworth.org>

### インターローシェン文科センター

3年生～12年生  
ミシガン州インターローシェン  
<http://www.interlochen.org>

### 英才児ナショナル・リサーチ・センター(NRC)

ジェイコブ・K・ジャビッツ・アクトの創設でコネチカット大  
学内にある。NRCは研究の中核3大学(コネチカット、バ  
ージニア、エール)の研究者、教育現場、政策当局の全国  
規模の協力の場である。ニュースレター、単行本、オンライ  
ン資料と、他の組織や資料へのリンク多数。  
コネチカット州ストアーズ、コネチカット大学  
<http://www.gifted.uconn.edu>

### 英才児プレカレッジ・プログラム・オフィス(OPPTAG)

7年生～9年生対象の各種主題についての宿泊夏期講  
習。地元生徒には学年中の数学クラスあり。  
アイオワ州エイムズ、アイオワ州立大学  
[http://www.public.iastate.edu/~opptag\\_info](http://www.public.iastate.edu/~opptag_info)

### 若い科学者の数学プログラム(PROMYS)

やる気のある高校生が数学の創造的世界を探求するた  
めの挑戦的プログラム。  
マサチューセッツ州ボストン、ボストン大学  
<http://math.bu.edu/people/promys>

### パーデュー大学

優秀学生教育リソース・インスティテュート  
7年生～12年生  
インディアナ州ウェストラファイエット、パーデュー大学  
<http://www.geri.soe.purdue.edu>

### リサーチ・サイエンス・インスティテュート

向上意欲のある高校生向けの科学指導プログラム。  
バージニア州ヴィエナ  
<http://www.cee.org/rsi/>

### ロッキーマウンテン・タレントサーチ・サマー・インスティ テュート

11歳から16歳までの宿泊または通いのプログラム。  
コロラド州デンバー  
<http://www.du.edu/education/ces/si.html>

### ロス数学プログラム

数学と科学に強い興味のある14歳から17歳を対象。  
集中数学コース。  
オハイオ州コロンバス、オハイオ州立大学  
<http://www.math.ohio-state.edu/ross>

### サザン・メソディスト大学英才児インスティテュート・ア ンド・プレカレッジ・プログラム

7年生～11年生。  
テキサス州ダラス、サザン・メソディスト大学  
<http://www.smu.edu>

### 言語・数学に卓越した青少年の夏季講習

7年生～10年生。  
英才研究センター  
ケンタッキー州ボウリング、ウェスタンケンタッキー大学  
<http://www.wku.edu/gifted>



### 才能発掘プログラム(TIP)

7年生～12年生の宿泊夏季講習。  
4年生～6年生の教育情報提供。  
ノースカロライナ州ダーラム、デューク大学  
<http://www.tip.duke.edu>

### ミネソタ大学英才数学プログラム(UMTYMP)

5年生～12年生向け数学加速教育の通学コース。  
教育プログラムのためのインスティテュート・オブ・テク  
ロジー・センター  
ミネソタ州ミネアポリス、ミネソタ大学  
<http://www.math.umn.edu/itcep/umtymmp>

### ウィスコンシン英才センター(WCATY)

4年生～12年生  
ウィスコンシン州マディソン  
<http://www.wcaty.org>

## 大学早期入学プログラム

### 大学早期入学センター

9年生～12年生。  
カリフォルニア州サクラメント、カリフォルニア州立大学  
<http://www.educ.csus.edu/projects/ace>

### ジョージア・アドバンスト・アカデミー

10年生で申し込み、11、12年生と大学の最初の2年を同  
時に受講。  
ジョージア州キャロルトン、ウェストジョージア州立大学  
<http://www.westga.edu/~academy>

### クラークソン・スクール

11年生修了生徒対象。大学早期入学。  
ニューヨーク州ポツダム、クラークソン・スクール  
<http://www.clarkson.edu/tcs>

### アイオワ大学全米文科理科技術アカデミー

11年生相当を修了した高校生が対象。  
アイオワ州アイオワ市、アイオワ大学  
<http://www.education.uiowa.edu/belinblank>

### 特別優秀学生プログラム

女兒は8年生から申込可能。生徒は通常4年以内で学士  
号を取得。  
バージニア州ストントン、メリー・ボールドウィン・カレッジ  
<http://www.mbc.edu/peg>

### サイモンズ・ロック

10年生修了生徒向けの大学早期入学と入学指導。  
マサチューセッツ州グレートバリントン、バード・カレッジ・  
サンモンズ・ロック  
<http://www.simons-rock.edu>

### ワシントン大学

若手研究者のためのハルバート・アンド・ナンシー・ロビン  
ソン・センター  
ワシントン州シアトル、ワシントン大学  
<http://www.depts.washington.edu/cscyc>

## 通信教育

### アドバンスト・プレースメント・プログラム

コースは多くの高校で実施。毎年5月に全国試験が実施  
される。好成績者には大学の単位が付与される。現在34  
コース。在籍する高校にAPコースがない生徒はAPEX学  
習公社のような組織を通じてオンラインコースを取ること  
ができる。多くの州ではオンラインAPコースに州の奨学  
金を出している。  
ニュージャージー州プリンストン  
<http://apcentral.collegeboard.com>

### 優秀青少年向け教育プログラム(EPGY)

幼稚園児から12年生までの生徒を対象にした、コンピ  
ューター利用の数学、数理科学、説明文の通信教育。  
カリフォルニア州スタンフォード、スタンフォード大学  
<http://www-epgy.stanford.edu>

### 大学通信教育

在宅学習コースで、オンライン、雇用者、関連インターネ  
ット・トレーニング、遠隔学習ネットワークを通じて修了  
可能。  
<http://www.onlinelearning.net>

### アイオワ・オンライン・アドバンスト・プレースメント・アカデミー (IOAPA)

アイオワ大学ベリン-ブランク・センター、  
アイオワ州アイオワ市

#### アイオワ・アドバンスト・プレースメント・アカデミー

(IOAPA)は州内全域を対象にしたプログラムで、僻地や小規模の学校を重点にしつつすべてのアイオワ州内の高校生にアドバンスト・プレースメント (AP) コースへのアクセスを提供。学生はAPコースをインターネットのウェブからもアイオワ州内の光通信ネットワークからも利用可能。当初の目的はアドバンスト・プレースメント参加者を増やすことであった。IOAPAは2001年に設立され、当時アイオワ州は1000人当りのAP試験受験者数で全米45位であったが、受講生徒数は毎年25%の割合で増加し、現在は全米37位。生徒が通信教育を取ると脱落率が50%以上となるのがごく普通であるが、IOAPAはこれとは違いわずか7%。ユニークな助言指導がありIOAPA生徒の完了率は何と93%を達成。

<http://www.iowaapacademy.org/>

### ジョンズ・ホプキンス大学

タレントド・ユース・センターではメールによる作文と数学の添削指導を通信教育センターを通して提供。

<http://www.jhu.edu/gifted/cde>

### ノースウェスタン大学

能力開発センターでは研究情報とプログラムを提供し、学業優秀な6年生から12年生向けのレター・リンク・ラーニングや通信コースがある。

イリノイ州エバンストン、ノースウェスタン大学

<http://www.ctd.northwestern.edu>

### ネブラスカ大学自主研究高校

クリフワード・ハーディン継続学習ネブラスカ・センター  
ネブラスカ州リンカーン

<http://dcs.unl.edu/ishs>

## コンテストと競技会

### アメリカ歴史エッセイコンテスト

ドーターズ・オブ・アメリカン・レポリューションが主催し  
5年生～8年生対象。

<http://www.dar.org>

### アメリカ数学コンペティション (旧AHSME)

高校卒業前の生徒はだれでも参加できる。好成績の生徒は、全米招待数学試験、アメリカ数学オリンピック、国際数学オリンピックに進める。

ネブラスカ州リンカーン、ネブラスカ大学

<http://www.unl.edu/amc>

### アメリカ・モデルUNインターナショナル

<http://www.amun.org>

### アメリカ地域数学リーグ (ARML)

高校生を対象にした毎年ある全米数学コンペティション。ARMLはペンシルバニア州立大学、アイオワ大学、サンホセ州立大学の3ヶ所で同時開催される。

<http://www.arml.com>

### 数学リーグ年次コンテスト

ニュージャージー州テナフライ、数学リーグプレス

<http://www.mathleague.com>

### デスティネーション・イマジネーション

<http://www.destinationimagination.org>

### フューチャー問題解決プログラム

カリキュラムの範囲内とそれを越えた分野のコンペティションまたは共同作業で、創造的な問題解決を図る。

ケンタッキー州レキシントン

<http://www.fpsp.org>

### ハワード・ヒューズ医学インスティテュート

プレカレッジの科学教育プログラム

<http://www.hhmi.org/grants/reports/scienceopp/main>

### インテル科学タレントサーチ (旧ウェスティングハウス科学タレントサーチ)

毎年11月29日までに高校上級生が独自の研究プロジェクトを提出。受賞者には大学の奨学金を与える。

ワシントンDC

<http://www.sciserv.org/sts>

### ジュニア・エンジニアリング技術協会 (JETS)

教育に関する全米組織で、エンジニアリング、科学、数学、技術への関心を高めるためのコンペティションやプログラムを高校生に提供。

バージニア州アレクサンドリア

<http://www.jets.org>

### ノリッジ・マスター・オープン

<http://www.greatauk.com/KMO.html>

### マンデルブロット・コンペティション

高校生対象

<http://www.mandelbrot.org>

### マスカウント

7年生～8年生を対象とする一連のコンペティションで4つの段階に分かれプログラムは1年にわたる。全米専門技術者協会、全米数学教師協議会、NASA、CNA財団の共催。

バージニア州アレクサンドリア

<http://www.mathcounts.org>

### MOEMS

小学校と中学校の数学オリンピック、8年生以下の生徒による校内学年コンペティション。

4年生～6年生向けの「E」部門と、6年生～8年生向けの「M」部門がある。

ニューヨーク州ベルモア

<http://www.moems.org>

### 全米アカデミック・クイズ・トーナメント

<http://www.naqt.com>

### ナショナル・ジオグラフィック・ビー

4年生～8年生

<http://www.nationalgeographic.com/geographybee/index.html>

### ナショナル・メリット・スカラーシップ

好成績をPSATで修めた生徒(11年生で参加)はコンペティションの他のレベルに進む。

<http://www.nationalmerit.org>

### ナショナル・サイエンス・ボウル

<http://www.scied.science.doe.gov/nsb>

### オデッセイ・オブ・ザ・マインド

<http://www.odysseyofthemind.com>

### 科学オリンピック

科学教育の質を向上させ、科学に対する生徒の関心を高め、生徒および教師による科学教育で顕著な成績を挙げた者を顕彰するための、コンペティション、クラス活動およびトレーニングのワークショップ。重点は生物学、地球科学、化学、物理学、コンピューターおよびテクノロジーにある。

ミシガン州ロチェスター

<http://www.soinc.org>

### スクリップス・ナショナル・スペリングビー

<http://www.spellingbee.com>

### U.S.化学チーム(高校)

アメリカ化学協会、ワシントンDC

<http://www.acs.org/education/student/olympiad.html>

### U.S.物理学チーム(高校)

アメリカ物理学教師協会、アメリカ物理学センター  
メリーランド州カレッジパーク

<http://www.aapt.org/Contests/olympiad.cfm>

### USA数学タレントサーチ(USAMTS)

<http://www.nsa.gov/usamts>

### 合衆国アカデミック・デカスロン

<http://www.usad.org>

### 出版物

#### 『優秀生徒のためのアカデミック・コンペティション』

M・K・タレント-ランネルズ、A・C・キャンドラー-ロットベン著(1995)、コーウィン・プレス、カリフォルニア州サウザンドオークス

#### 『コンペティション:あなたの能力を最大化する』

F・A・カーンズ、T・L・ライリー著(1996)、プルフロック・プレス、テキサス州ウェイコ。様々なコンテストとコンペティションを掲載。



### 『数学的才能の開発：優秀な生徒のチャレンジ教育ガイド』

S・アスーリン、A・ルブコウスキー・ショプリク著(2003)、プルフロク・プレス、テキサス州ウェイコ。多面的なハンドブックで、数学的才能のある生徒の例外的なニーズに対応する教育者と父兄のユニークな役割をまとめる。

### 『能力の高いプレカレッジ生徒の科学トレーニング要覧』

サイエンス・サービス、ワシントンDC  
<http://www.sciserv.org/stp>

### 『教育機会ガイド』

デューク大学の才能発掘プログラム(TIP)から。このガイドは毎年刊行され全米の夏季講習や学年プログラムを多数収録。TIPの才能発掘で好成績を修めた生徒は無料でもらえる。

ノースカロライナ州ダーラム、デューク大学  
<http://www.tip.duke.edu>

### 『特に能力の高い子供たち』(第2版)

M・U・M・グロス著(2004)、ルートリッジ・ファルマー、ロンドン  
<http://www.routledgefalmer.com>

### 『否定される天才』

J・デビッドソン、B・デビッドソン著(2004)、サイモン・アンド・シュースター、ニューヨーク。  
<http://www.geniusdenied.com>

### 『優秀学生教育ハンドブック』(第3版)

N・コランジェロ、G・デビス著(2003)、エイリン・アンド・ベイコン、マサチューセッツ州ニーダムハイツ

### 『アイオワ加速教育基準』

S・G・アスーリン、N・コランジェロ、A・E・ルブコウスキー・ショプリク、J・リブスコム、L・フォースタットの開発(2003)。グレート・ポテンシャル・プレス。幼稚園から8年生の生徒に丸1年の飛び級を検討している教育者と父兄に体系的で徹底的な意思決定の方法を提供する。アリゾナ州スコッツデール、グレート・ポテンシャル・プレス  
<http://www.giftedbooks.com>

### 『数学コーチ：子供の数学が良くなるためのペアレントガイド』

W・A・ウィケルグレン、I・ウィケルグレン。ニューヨーク、パークレー・ブックス。

### 『ピーターソンの青少年夏季講習ガイド』

夏季講習の情報を集め毎年改定されている。  
注文は地元の書店か電話で1-800-338-3282へ。

## 定期刊行物

### 『アドバンスト・ディベロプメント・ジャーナル』

早期能力開発研究所  
コロラド州デンバー  
<http://www.gifteddevelopment.com/Merchant2/merchant.mvc>

### 『季刊・優秀学生』

全米キフテッド・チルドレン協会(NAGC)の機関紙。専門家および英才教育の経験者に興味ある記事を掲載。  
<http://www.nagc.org/Publications/GiftedChild/>

### 『優秀学生トゥデイ』

教師と父兄が主体となり、専門用語を使わず才能があり創造的な子供と関わる際の有益な助言を提供。  
プルフロク・プレスの出版。  
<http://www.prufrock.com>

### 『イマジ』

学業の進んだ生徒のための雑誌。ジョンズ・ホプキンス大学のタレンティド・ユース・センターが年に5回発行。  
<http://www.jhu.edu/~gifted/imagine>

### 『英才教育ジャーナル』(JEG)

英才児協議会の部局である優秀学生協会(TAG)の機関紙で、この分野の経験者が対象。  
テキサス州ウェイコ、プルフロク・プレス  
800-998-2208  
[http://www.prufrock.com/client/client\\_pages/prufrock\\_jm\\_jeg.cfm](http://www.prufrock.com/client/client_pages/prufrock_jm_jeg.cfm)

### 『可能性のある子を育てるしつけ』

NAGCが出している父兄向けの素晴らしい雑誌。  
ワシントンDC  
202-785-4268  
<http://www.nagc.org/Publications/Parenting/index.html>

### 「ローパー・レビュー」

専門家対象。研究を基にした記事でしばしば理論と実践の両方をカバー。

ミシガン州ブルームヒル

<http://www.roeperreview.org>

### 「優秀学生の理解」

オープンスペース・コミュニケーションInc.、

コロラド州ボルダー

303-444-7020 or 800-494-6178

<http://www.openspacecomm.com>

### 「ビジョン」

コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク国際

優秀学生教育・能力開発センターのニューズレター。

アイオワ州アイオワ市、アイオワ大学

319-335-6148 or 800-336-6463

<http://www.uiowa.edu/~belinctr/vision>

## 組織

ほとんどの州には州レベルや地方レベルで能力のある生徒の支援組織があり、教職に就く前や就いた後での英才教育のトレーニングを行ない、父兄・コミュニティーの啓発、教育、関与を支援している。各州個別情報はNAGCのウェブサイトを参照。

### 全米優秀学生協会 (NAGC)

NAGCは50年を超える歴史を持つ非営利団体で、年次総会があり、父兄のための雑誌「ハイポテンシャル教育」と専門ジャーナル「季刊・優秀学生」の2つの定期刊行物がある。英才児の父兄、教育者、コミュニティーのリーダーその他の専門家に奉仕することが組織目的。

ワシントンDC

<http://www.nagc.org>

### アメリカ優秀学生協会 (AAGC)

AAGCはアメリカで最も古い英才児擁護団体で1940年代後半に設立。

ノースカロライナ州ダーラム、デューク大学

<http://www.aagc.org>

### アメリカ心理学協会 (APA)

英才児教育政策エスター・カツツ・ローゼン・センター

センターの使命は、特別な才能を有する青少年を伸ばすための、世間一般の認識向上、擁護、臨床応用、最新の研究にある。

<http://www.apa.org/ed/cgep.html>

### 優秀学生協会 (TAG)

英才児協議会 (CEC) の専門機関。

バージニア州アーリントン

<http://www.cec.sped.org>

### ホリングワース英才児センター

ニューハンプシャー州ドーバー

303-554-7895

<http://www.hollingworth.org>

### 優秀学生の情緒的ニーズ支援組織 (SENG)

アリゾナ州スコッツデール

206-498-6744

<http://www.sengifted.org>

### TAGファミリー・ネットワーク

1990年オレゴン州で父兄のために設立され全国組織となる。

情報請求はEメールで。rkaltwas@teleport.com.

またTAGホットラインあり。503-378-7851.

### ベリン・ブランク・センター・リストサーヴ

購読はlistserv@list.uiowa.eduにEメールで請求。表題は空白とし本文に「subscribe gifted-teachers」というメッセージのテキストを記入。

## ウェブサイト

### アフタースクール (Afterschool.gov)

<http://www.afterschool.gov>

### アメリカン・メモリー (American Memory: Historical Collections)

<http://memory.loc.gov>

### サイバーキッズ (Cyberkids)

<http://www.cyberkids.com>

### ディスカバリー・チャンネル・スクール (Discovery Channel School)

<http://www.school.discovery.com>

### 米国大学早期入学プログラム (Early Entrance College Programs in the USA)

大学早期入学の学生が作った父兄・生徒向けの網羅的网站。

<http://earlyentrance.org>

### アイゼンハワー・ナショナル・コミッション (Eisenhower National Commission)

カリキュラム素材と数学・科学を教える際に役立つ情報。

<http://www.enc.org>

### ソーラーシステムを探る (Exploring the Solar System)

<http://www.nytimes.com/library/national/science/solar-index.html>

### 連邦英才教育資料集 (Federal Resources for Educational Excellence)

<http://www.ed.gov/free>

### フリー・ファイアウッド (Free Firewood)

生徒向けのカリキュラム素材の巨大なコレクション。

<http://www.ignitethefire.com/freefirewood.html>

### ホーギー英才教育ページ (The Hoagies Gifted Education Page)

家庭向けの一般入門資料

<http://www.hoagiesgifted.org>

### キッドソース (KidSource)

<http://www.kidsource.com/kidsource/pages/ed.gifted.html>

### ラーニング・ネットワーク (Learning Network, On This Day)

<http://www.nytimes.com/learning/general/onthisday>

### ラーニング・ページ (The Learning Page)

<http://lcweb2.loc.gov/ammem/ndlpedu/index.html>

### ノーザンケンタッキー大学数学教育 (Mathematics Education at Northern Kentucky University)

<http://www.nku.edu/~mathed/gifted.html>

### 私の歴史はアメリカの歴史 (My History is America's History)

[http://www.pueblo.gsa.gov/cic\\_text/misc/my-history-p/my-hist.htm](http://www.pueblo.gsa.gov/cic_text/misc/my-history-p/my-hist.htm)

### ナショナル・ギャラリー・オブ・アート (National Gallery of Art)

<http://www.nga.gov/education/education.htm>

### ナショナル・パークサービス・ミュージアム展示 (National Park Service Museum Exhibits)

<http://www.cr.nps.gov/museum/exhibits/index.html>

### ショウ・ミー・センター (ShowMe Center)

<http://www.showmecenter.missouri.edu>



## 今すぐできること

### 情報収集

私たちの国の将来は、正確な情報に依存しています。私たちの国で専門家となり、技術や政治におけるリーダーになる可能性のある生徒は、言語面と数学面で進んでいるにもかかわらず学校で十分な支援が受けられないでいることがよくあります。この問題について私たち自身が知識をつけ、生徒に対して正しい行動を取らなければなりません。

### 変化を強く求める

どの市民も支援ができます。自分の子供が加速教育の候補でなくとも、態度を変えるように擁護できます。すべてのアメリカ人は、最も聡明な生徒も含め、機会に巡り合うことを欲しています。

人々の夢の実現を妨げることは、私たちの国民性に反します。学校がすべての子供の学習ニーズに応えれば、私たちのすべてにメリットがあります。

### 子供のことを考えて投票を

勉学の進んでいる子供たちを助ける方策としての加速教育について、長期の積極的な記録があることを教育委員会の役員候補が知っているようなら、その候補者を注目してください。この問題についての真実を知ろうとする候補者は、投票に値します。どの学校の役員会も、最も聡明な生徒を含め、すべての生徒に関心を持つ候補を役員に迎えることで得るものがあります。

平等とは適切な機会があることです。投票の際に、この候補はすべての生徒に機会を与えるよう行動するかどうかを、自分に問いかけてください。

### 議会に手紙を出す

州や連邦議会の立法者に手紙を出しましょう。学校の役員会に手紙を出しましょう。地元の役員に連絡を取りましょう。彼らに知ってもらおうのです。

私は最近『欺かれた国家：学校がアメリカの優秀な生徒をいかに妨げているか』を読み、とても心配になりました。わが国の優秀な生徒に何が起きているか十分に把握してください。彼らに適切な機会を与えるべく判断してくださることを期待します。

レポート全文は

<http://nationdeceived.org>をご覧ください。



## 口実と言いつ

### 加速教育に関する主な口実を収集

#### 口実1

まだ用意ができていません。今のままで問題ありません。社会性や情緒面でどうなるかわかりません。飛び級をさせるといじめられるかもしれません。

#### 口実2

この子に大きなプレッシャーがかかります。まだ8歳です。この子らしくさせましょう。

#### 口実3

この学校にはできる子がたくさんいます。この子が違うとどうしてわかりますか。もう飛び級できるとどうしてわかるのですか。

#### 口実4

生徒を先に進めて勉強や社会性に役立つという証拠はまったくありません。

## 学校が問うべき質問

アメリカで行なわれる「加速教育」という言葉を含む会話には、大切に適切な次の3つの質問が含まれるべきです。ある生徒の加速教育を検討するときには、必ずこの大事な質問を話し合ってください。

#### 大事な質問1

この子供が先に進んでペースの速いカリキュラムを受ける用意ができているかを判断するため、生徒の能力を正しく判定したか。

#### 大事な質問2

加速教育が効果的であるとの結果が出た場合、どのような加速教育がこの子供に最も良いか。

#### 大事な質問3

加速教育が効果的でなかった例はわずかにある。この生徒の加速教育をうまく進めるには学校として何ができるか。

『欺かれた国家』第I巻および第II巻に適切な情報に基づく回答があります。

欺かれた  
国家:

学校がアメリカの優秀な生徒を  
いかに妨げているか